

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

都道府県	学校名・名前	研究主題	研究主題の主要な研究成果
北海道	札幌市立伏見小学校	意欲的に学ぶ子の育成 ～「学びの基軸」を創り上げる学習～	研究主題「意欲的に学ぶ子の育成」は、これからの時代を生きる子どもにとって、まさしく「生きる力」となるものと捉え、研究を進めた。その結果、以下のような成果が上がった。 ・研究副主題として掲げた「『学びの機軸』を創り上げる学習」が意欲的に学ぶ子の育成につながった。各教科、領域が設定した「学びの機軸」を共通理解することで、どの学年でどのような力を子どもに育むのが明確になり、日常授業の改善につながった。 ・子どもの意欲的に学ぶ姿(＝自ら進んで対象に関わり追究し続ける姿)が実践を通してたくさん見られた。 ・子どもが意欲的になるために、どのような教材化を図れば効果的なのか、教諭同士で研鑽を積むことができた。 ・対象を絞り込むことで、子どもの変容につながった。 本研究を通しての本校児童の学びの姿は、研究主題を実現するものであったと言える。しかし、学んだことを「自分の生き方」や「自分の生活」に生かしているかと言うと、まだまだ生かし切れていないという姿が浮かび上がる。こうした実態から次期研究にアプローチしていく。
北海道	札幌市立富丘小学校	主体的に生きる子どもの育成 ～子どもの納得が生まれる授業の創造～	○「なるほど。」や「分かった。」というつぶやきが授業中に生まれる姿から「知らなかったことを知った。」「知っていたことがよりしっかりと確認できた。」という知識理解の深まりが感じられた。 ○「学んだことを他の学習でも活用しよう。」「学びの過程を理解し、その過程を他の学習にも生かそう。」という活用力の高まりを感じた。 ○「思考力・表現力・判断力」が高まり、「聞く人に伝わるように工夫して表現したい。」「見る人に分かりやすく表現したい。」などの気持ちが生まれ、自分なりに考えて表現しようとする姿が見られるようになった。 このような姿から、「納得が生まれる授業」が成立してきたと考えられる。
北海道	旭川市立大有小学校	学校力向上を目指した効果的な学校マネジメントの推進	本研究主題の主要な研究成果としては、組織体としてのマネジメント機能と学校改善サイクルの実効性が相乗的に高まった結果、学校のマネジメント力向上が図られたことである。具体的には、①スクールリーダーの継続的な育成を図るため、系統的な人材育成システムを構築したことにより貪欲に学び続ける教師集団を育成することができた。②組織的に教育活動の質の向上を図るため、学年やメンター研修等を活用した学力向上策等の取組を推進したことにより学校のマネジメント機能を強化することができた。③学校改善の実効性を高めるため、組織的な取組や指導方法等の価値付けに裏打ちされた改善策の推進により、教職員のマネジメント力が高まった。
宮城	登米市立石森小学校	学んだことを生かして考え、課題解決ができる子供の育成 ～算数科における学び合いの指導を通して～	解決の見通しをもたせ、自力解決を促すために次のような手立てが有効であった。 1 見通しをもたせるときや自力解決の際、学習コーナー(既習事項を記入した用紙等を壁面に掲示する場所)をより活用するために、授業序盤で既習事項を指し示して確認させたり、定義や公式を確認したりすることが自力解決、集団解決に役立っていた。 2 自力解決の前に、どのような方法で取り組むかを選択させ、見通しをもたせることで、意欲的な取組が見られ、自分の考えをもたせるのに有効であった。○○作戦、「はかせ」はやく、かんたん、せいにかくにで取り組むことが子供たちにとってわかりやすいものであり、有効であった。
宮城	登米市立宝江小学校	「知」と「体」のバランスのとれた児童の育成を目指して ～「学力向上」「体力・運動能力向上」を二本柱にした取組を通して～	1 「学力向上対策」 新設した学力向上担当を中心に作成した「授業改善プロジェクト」をもとに、学校全体で授業改善に取り組んだ。算数科において多くの授業で適用問題まで行う事ができ、学習内容の定着につながることができた。また、「宝江小スタンダード」を作成したことで、学校と家庭とが基本的事項を共有できた。ICTを活用してより分かる授業づくりが行えた。 2 「体力・運動能力向上対策」 ①主運動に結び付くレーニングゲームを導入し、運動量の確保と主運動への速やかな移行を行う事ができた。また、体育アプリを活用して、自分の演技やグループの試合の様子等を録画、再生することを通して、子どもたちが学び合い、主体的に話し合う姿に結びついた。 ②縄跳びの技能を向上させる「ジャンピングボード」や投げる力を向上させるための「バトン投げチャレンジ」調整力を高めるための「ケンケンバの場づくり」などを作成し設置したことにより、子どもたちが意欲的に活用を図っている姿が見られた。また、体力を高めるための日常の取組の工夫として各種カード(体力元気アップチャレンジ、マラソン、なわとび)の活用を行う事ができた。
山形	山形市立第八小学校	学校資源のよさを生かし、教師と子どもを輝かせる学校経営 ～開校時の教育理念に光を当て、その具現化を図る取組～	平成32年度の山形市教委嘱研究発表を控え、「環境化無為」という本校開校当初からの理念に光を当てながら、不易の領域を大切にしながらも、親子による安全マップづくり、なわとびセンシングサービス等、大学や企業、公的機関等外部団体からの先進的な企画提案等を積極的に取り入れ、物的・人的な内外の教育環境の発展充実に努めてきた。日常の授業や教育活動における児童の学びに向かう力の高まり、そして、教職員自身の「みとりと支援」についての意識更新がみられることが、大きな成果である。
山形	東根市立東根小学校	自ら学び続ける子ども ～道徳・総合的な学習の時間の授業の創造～	1 道徳 ○これまでの経験や体験と結びつけた導入を考えたり、お互いの気付きを交流する場を設けたり、役割演技や動作化などで追体験することで、子どもは実感を伴って、資料をとらえ自分に置き換えて考えることができるようになった。 2 総合的な学習の時間 ○東北大会を経験し、総合的な学習の時間の在り方を一から教えていただき、子どもの思いや願いから単元をスタートし実践することができた。子どもが課題を自分事として捉え、追及し続けるために、本物に触れる体験や失敗体験を大切にすること、子どもが主体となる話し合いを大切にすることが明らかになった。全職員が一つになって取り組めたことも大きな成果である。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

山形	東根市立長瀬小学校	地域とのつながり世界一の児童に ～地域の文化財を未来につなぐつながりがねっこ～	1 成果 取組み後に研究実践の成果を知る手立てとして、児童が書いた感想などを活用し、検証を図った。 (1) 想画を通して、地域の方と児童、児童の保護者と地域、長瀬の過去と現在、現在と未来をつなぐことができた。 (2) 今と昔の描かれた内容の違いを知り、くらしの違いを学んだ。 (3) 長瀬の景色や風景などの良さを学ぶ機会になった。 (4) 自分の思いを伝える絵の表現力が向上した。 2 課題 6年の単学年で実施しているため、毎年対象児童と担当職員が変わるので、以下の2点が課題である。 (1) 前年度の反省を生かし改善を図るために、取組み終了後に反省点をまとめ、確実に引継ぎを行う。 (2) 児童の生活や思いを俳句に表現する言葉の力の向上を図る。
山形	新庄市立北辰小学校	学校と地域がつながり、互いに高め合う学校をめざして ～郷土に誇りを持ち、未来を創る子どもの育成を通して～	1 児童の学習活動の場をさらに広げること。現在は、観察などが中心となっているが、さらに視野を広げて、環境に優しい町づくり、外来種のかかわり、生態系を維持していく活動を展開していきたいと考えている。 2 地域のきらりと光る何かを、大学生を交えたみんなで探し、調べ、確認して資料にまとめた。活動を通じて郷土への関心や誇りを持ち、地域の良さを再認識できた。 3 地域には豊富なお宝(教育資源)が埋蔵されている。地域を思い地域の方々に感謝の気持ちを持ちながら、地域貢献の確かな意識の芽生えを感じている。これからも、教職員と共に地域連携を深め、より積極的に地域貢献の役割を果たす学校を経営していきたいと思う。
山形	米沢市立興譲小学校	児童主体の探求型学習を目指して ～「学び方学習」を生かした授業づくりの取り組みを通して～	1. 授業改善のために本校独自の「学び方学習」を見直し、これを基盤とした探求型学習の授業づくりを3年間継続してきたことにより、児童に「さしすせそ学習」が身につく、学習の見通しを持って取り組めるようになってきた。 2. 「で」に学習」を継続したことにより、自分の考えを基に、友達との学び合いによって課題を解決する学習を楽しんでいる児童が増えた。 3. 児童の学習に向かう意欲が高まり、勉強がわかる、できる、学校が楽しいという児童が増えてきている。 4. 見える学力としての各種学力検査等でも良好な状況であり、不登校の児童もいない。
山形	鶴岡市立鼠ヶ関小学校	地域とともに未来を創る学校経営 ～「鼠ヶ関大好き」と言える子どもを育てるための取組～	1 鼠ヶ関という地域の特色を生かした教育 海・山・川の自然に恵まれた地域だからできる教育に、地域・保護者の理解と協力を得ながら計画的に実施できるようになった。 2 地域学習協力会(みちくさ会)の発足 地域学習協力会(みちくさ会)が中心となり、放課後子ども教室が次年度から開設されることになった。核家族化が進んできているこの地域で、保護者からも歓迎の声が上がっている。そのためか、次年度、十数年ぶりに児童数増になる予定である。 3 鼠ヶ関大好きと言える職員の育成 新潟県との県境にあり、鶴岡市中心部からの通勤距離が40km近いへき地校であるが、勤務年数の長い職員が多い。鼠ヶ関という地域を好きだと言う職員がほとんどである。
山形	酒田市立新堀小学校	カリキュラム・マネジメントの実現を目指す校長のリーダーシップ ～「遠足・集団宿泊的行事」の見直しを通して～	本稿は、カリキュラム・マネジメントの実現を目指して教育課程を編成する上で、校長がリーダーシップを発揮するとは、どのような姿なのか、校長としてどのような取組が可能なのかを論じることを目的とした。結論というよりも、提案は次の2つである。 ① カリキュラム・マネジメントの実現を目指し、校長も同僚性を発揮して教育課程を編成していくという姿勢は、これからの校長に求められる姿の一つではないだろうか。 ② カリキュラム・マネジメントの実現を目指して教育課程を計画・実施・編成する中で、テーマを持って中堅教諭等の現職教育研修会を校長が開催することは、人材育成の一つの手立てとなるのではないだろうか。
福島	郡山市立金透小学校	ともに学び育つ ～子ども一人一人の問いを生かし、豊かな学びを創る～(第4年次)	1. 子どもの問いかけを生かした単元構想や課題設定を行い、問の変容の見とりから適宜修正を図って授業実践に務めたことにより、課題解決に必要感をもち、追及意欲を持続・向上させながら主体的・創造的に学ぶ子供の姿が認められた。 2. 問いの可視化や教師のコーディネートによる「問いの共有化」を通して、主体的に友達とかかわり合いながら豊かに学び合い、確かな力を培っていく子どもの姿がみられた。 3. 授業の終末に学習日記やワークシートでの振り返りを設け、子どもの変容を交流したり価値付けたりすることで、自他の成長を実感しながら学びの質を高めていくことができた。
福島	石川町立石川小学校	国語科における「目標と学習と評価の一本化」による「学び合う授業」の創造 ～共に国語力を高めるための学びを振り返る評価の工夫～	1. アウトプット型の課題を設定したことで、児童は目標を明確にしながらか意欲的に学習に取り組み、教師は目指す児童の姿をイメージしながら学習を展開することができた。 2. ネームプレートにより児童の学習状況を可視化することで、児童は、自他の考えや解決の度合いを確認し、教師は、児童の思考の変容を捉えながら学習を展開することができた。 3. 学習形態を工夫することで、児童が自他の考えを比較したり、児童同士で議論したりしながら課題を解決することができた。 4. シラバスの活用により、児童が単元の見通しを持ちながら学習し、自己評価の変容も捉えることで、学びの成果を実感することができた。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

福島	田村市立船引小学校	ともに学び合う授業の創造 ～聴き、考え、つながる学びを求めて～	1 授業のあらゆる場面での「対話的な活動」における子どもの学びの姿を見取り、価値付けることで、深い学び合いのある授業を行うことができた。また、教育活動全体の中でこれらの姿を活用させることで、授業での学びをつなげることができた。 2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、子どもたちがさらに「広がり・深まり」を実感できるように授業を改善していくこと、子どもたちが身に付けた力を多くの場面で活用させることができるように教育活動を展開していくこと、「人・もの・こと」などの地域の人的・物的資源を活用しながら教科横断的に学びをつなぎ、さらには様々な教育データに基づいてPDCAサイクルを恒常的に機能させて「社会に開かれた教育課程」になるように更に研究を積み重ねていく。
福島	矢吹町立善郷小学校	思考力・表現力を育てる学習指導の工夫 ～学び合いを通して～	1 国語科、算数科において「書く活動」を意図的に取り入れることにより、自分の考えを書いて表現する力を高めることができた。また、書き方を示したり、条件を付けて考えを書かせたりしたことが表現力の向上にもつながった。 2 重点化を図った単元構想により、ねらいを明確にしてグループやペアで話し合わせる活動を計画的に設定し、一人一人の表現力を高めることができた 3 ホワイトボードの活用やKJ法を取り入れた活動により、ペアやグループで話し合いを活性化させることができた。児童の考えを可視化させることが、学び合いを深めさせることにつながった。 4 授業構想を明確にし、発問や板書計画を精選することで、児童の考えを生かして学び合いを深め、教師のコーディネート力を高めることにもつながった。 5 習熟度別学習により、基礎的・基本的な学習内容や発展的な学習内容について、それぞれの児童に応じた学習活動を進めたことは、内容の定着だけでなく興味関心を高めることにもつながった。 6 算数科においては、ITCなど視聴覚教材の有効活用により、児童の理解を促すだけでなく児童の活動時間の確保にもつながった。
福島	棚倉町立山岡小学校	算数科における伝え合う力の育成 ～児童が主体的に取り組む授業の工夫～	1. 主体的に取り組む「個」を育てるために ○ 前時に課題を提示し、自力解決の一部を家庭やぐんぐんタイムで行わせたことは、時間を有効に活用できてよかった。 2. 主体的に取り組む「集団」を育てるために ○ どのように考えて解いたのかを図や言葉などを使って説明を加えながら発表させることにより、筋道を立てて考えることができるようになってきた。 3. キャリア教育の視点から ○ 本校は、複式学級なので、各学年とも、教師が直接関われない時間帯がある。そんな時間帯に児童たちは、考えを出し合うなど、主体的に課題に取り組むことができるようになってきた。
茨城	常陸太田市立久米小学校	聴き合い学び合う、夢中になって学ぶ授業づくり ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた校内研修を通して～	1 協働的な学習の中で、友達との対話を行い、友達と学ぶことの楽しさや友達に聴いて「わかった」という感覚を児童が感じる授業の実践により、児童一人一人が聴き合い学び合う、夢中になって探究的に学ぶことにつながることが明らかになった。 2 全職員が授業を公開することで、授業に対する認識を高め、毎時間の授業の改善を図ろうとする意識を高めることができた。授業を公開することは、教師にとって負担が大きいと考えられがちであるが、授業公開が日常化していくとき、負担感を越えて教師自身のスキルアップにつながる。また、授業公開を行うことで児童の姿を通し、教師同士がつながり一体感を高め、同僚性が深まった。
茨城	鉾田市立鉾田南中学校	学ぶ意欲を高め、自ら学習しようとする生徒の育成 ～望ましい生活習慣の定着と分かる授業の実践を通して～	学習意欲と学力の向上を図るために、生徒には「望ましい生活習慣の定着を図る取組」を、教師には「分かる授業の実践の取組」をはたさきかけた。望ましい生活習慣の定着のために、①読書活動の推進、②生徒会の呼びかけ、③家庭学習の習慣化、を励行した。また、分かる授業の実践のために、①「学び合い」を中核とする鉾田市授業スタイルの推進、②授業実践におけるICT機器利活用、③授業研修の充実を図った。それら取組の結果、望ましい生活習慣の定着率が向上し、生徒は落ち着いて学習に取り組めるようになった。
茨城	八千代町立八千代第一中学校	課題解決能力を高め主体的に思考・表現する生徒の育成 ～学習スタイル確立と交流におけるICTを活用した言語活動の工夫を通して～	1 課題解決のプロセスを明確にした授業を教科の枠組みを越えて展開することで、生徒の自主的学習力や課題解決能力が高揚し、基礎的・基本的な知識や技能が確実に定着するとともに、習得した知識や技能を日常生活で活用していこうとする態度が育成された。 2 ICT機器の有用性である即時性や共有性、保存性を協働的な学びの場面に生かし 言語活動の充実を図ることで、生徒は必要な情報を主体的に選択して学習活動に取り組み自分の考えを表すことにつながり、思考力や表現力が向上した。また、学習してきたことが保存してあるため、ポートフォリオの作成が容易であり、教師が生徒の変容を把握して評価や指導に役立てることができた。
群馬	館林市立第三小学校	教科担当制を活用した「確かな学力」を身に付けた児童の育成 ～指導体制の工夫と「考え、表現させる授業」の改善・充実を通して～	教科担当制を小学校高学年で次のように行い、学力面、生徒指導面において成果があった。 1. 人事配置は高学年を中心とした、担任4名と専科3名が、9教科を担当した。できる限り専門教科に係る中学教員免許を持つ教科を担当した。 2. 教科担当制部会を月1回開催し、各教科共通の工夫として「考え、表現させる授業」の改善に向け、比較・検討、関連付けを取り入れた意見交流を行った。 3. 中学校と同じように、教師間で児童について情報交換を行い、児童への支援や問題行動等には担任を中心にチームで臨んだ。 4. 専門性を生かした責任ある指導のための教材研究の充実に向け、空き時間を週5時間以上確保した。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

群馬	群馬県立前橋高等学校	「総合的な学習の時間」における「生きる力」の育成 知のフロンティア～新しい学びの創造～	1. 1・2年生は年間を通して研究してきた課題の成果をポスターセッションという形で結実させた。よくあるようなグループ単位での研究ではなく、個人で全ての責任を持ち研究を仕上げた。生徒達はゼミ担当教諭の指導のもと高いレベルで研究を完遂させたが、さらにそれをポスターに表現するなかで能力を多面的に伸長することができた。ポスターセッションであるから、自分の研究成果をポスターという形にして他者に伝達しなければならないが、他者に伝えることへの試行錯誤を通して研究内容をさらに深く理解できた。また、セッションでは質疑応答もあるので、その際の対応を通して折衝能力も育った。ゼミ内での協働的作業が、個人の活動では得がたい刺激となって生徒を成長させた。 2. 3年生は、1・2年次で獲得した課題発見と解決の視点をもとに、英語で意見を論述した。このように国際的かつ教科横断的な学習を可能にするのが「総合学習」の特徴であった。
埼玉	川越市立月越小学校	自分ごととして捉え、話し合い、よりよい生き方を考える 道徳科の授業	1 問題解決型の道徳科授業を実践していく中で、適切な課題が与えられた子ども達は、十分に葛藤しながら、様々な角度から問題を解決しようと考え、話し合いながらよりよい解決方法を見出そうとしている。 2 移動型ミニホワイトボードを活用したグループ学習の充実を図ることで、友達との多様な考えに触れることができ、自身の考えを深めることができています。 3 道徳ノートの実践活用(振り返り)を図ることによって、学んだ価値について自分の生活経験と関連させながら考えることができるようになってきており、授業の中で得たことを元に、よりよい行動選択につなげていく児童も見られるようになってきている。
埼玉	飯能市立名栗小学校	主体的に学び、共に高め合う児童の育成を目指して ～複式学級における算数科学習指導の研究～	1 本時で学ぶことがイメージできる「わらいづくり(課題設定)」 本時の「まとめ」との整合性があり、児童にとってゴールが明確となる課題を設定することで学びが深まることが分かった。また、自力解決や話し合いの活動が活性化し、学習活動がより児童主体で行われるようになった。 2 児童が自らの言葉で「まとめ」を行うための「キーワード」 本時の課題を解決するための「キーワード」を児童が話し合いの中でお互いに出し合い確認することで、どの児童も自らの言葉で表現した「まとめ」となり、自分たちで導き出した学習成果として蓄積し、定着度も高い。形成的評価及び効果的な支援にもつながった。
埼玉	富士見市立勝瀬小学校	国語科を中心とした、学び合う授業実践	1. 学校環境適応尺度(アセス)では、平成29年5月は、平成27年5月に比べ、友人サポート感が2.08ポイント、向社会的スキルが1.74ポイント、非侵害的関係が0.55ポイント向上した。このような結果から、学び合う授業実践という点においては、一定の成果があったと考えられる。 2. 学校環境適応尺度(アセス)では、平成29年5月は、平成27年5月に比べ、教師サポート感が2.69ポイント向上した。このような結果から、教職員の指導力の向上が図られたと考えられる。 3. 全国学力・学習状況調査では、「国語が好きですか」という質問に対し、平成29年度調査は、平成27年度に比べ、本校児童の肯定的な回答が22.8ポイント向上するとともに、29年度調査では、全国平均値を13.7ポイント上回った。このような結果から、本校児童の国語科の学習に対する肯定的認知と学習意欲が向上したと考えられる。
埼玉	富士見市立針ヶ谷小学校	気づき、考え、進んで活動する子どもの育成 ～子ども一人一人が「わかった!」「できた!」と実感する授業の構想と展開～	1 3つの部ごとに授業の構想と展開を示す「針小スタンダード」を作成することができた。一人一人が授業を行うたびに修正を加えながら1年間かけて仕上げることもできた。来年度は4月からこの「針小スタンダード」を基に学校全体、共通理解・共通行動で授業に取り組んでいく。 2 子ども一人一人が「わかった!」「できた!」と実感する授業を目指し、教師一人一人指導案を作成し、一授業を行い個で学ぶことができた。また各部、全体での研究授業・その後の研究協議において活発な意見交換をすることができ、部や全体で学ぶこともできた。教職員の授業への意識が向上し、指導力の向上が見られた。
埼玉	三芳町立唐沢小学校	運動の特性や魅力を味わい、意欲的に運動に取り組む児童の育成 ～「わかる」「できる」「かかわる」体育授業の実践を通して～	1. ハンドサインの統一など学校全体で学習規律を徹底したことで、マネジメント時間が短縮され、集中して学習に取り組めるようになっていく。学年や学校全体で集まったときに素早く注目、整列することができており、学校生活全体の指導に役立っている。 2. 2年間の取り組みを行うことで、新体力テストの結果(A+B+Cの割合)、H27年度73.4%→H28年度71.1%→H29年度78.9%と県目標値である80%に迫ることができた。 3. 研究を通して、「唐沢小体育授業」の流れが確立し、全教員が一貫性を持ち、同じ授業の流れで授業を展開することができた。 4. 体育の授業で教材・教具を工夫したり、意図的に関わり合い(学び合い)の時間を設定したりすることで、運動に意欲的に取り組む児童が増えた。
埼玉	鳩山町立鳩山小学校	よりよい学校生活を創造する児童の育成 ～思いや考えを伝え合う話し合い活動の充実を通して～	1 児童が学級や学校生活の諸問題に気づき、よりよく解決しようとした。提案者と計画委員が話し合いの目的、根拠をわかりやすく説明し、学級全員の意欲を引き出し、活発に話し合うことができた。 2 児童が望ましい人間関係を形成し、折り合いをつける努力をした。相手の意見を尊重し、少数意見を他の考えと合わせ、別の機会に生かすなどの配慮をしながら話し合いを進めることができた。 3 児童が一人一人の思いや願いを生かし活動することができた。 自分の意見が採用され実行できた充実感や達成感から自分の存在を価値ある存在として捉えることができる児童が増えた。
千葉	千葉市立登戸小学校	心はずませ、主体的に学び、磨き合う子供の育成 ～「できた」「見つけた」喜びと感動の算数学習への挑戦～	1. 以下の3つを行う際、具体物操作が有効であった。 ①素材の中から問題を把握する ②自力解決のときの思考を助ける ③考えを説明する 2. グループで自分の考えを説明する場を設定し、互いの意見を聞き合ったり、認め合ったりしたことで、満足感を味わうことができ、伝えようという意欲を高めることができた。 3. 学習活動を活用していくために、作業活動や具体物操作から適切な時期に念頭操作へと移行できるよう個別指導したり、習熟を図ったりしていきたい。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

千葉	市川市立塩浜学園	はまっこサポート(地域学校協働本部)の創設と新たな挑戦 ～「地域とともにある学校」の取組で、子どもを育てる環境の好循環を～	子どもたちを中心に据えて支えるための緩やかなネットワーク「はまっこサポート」を創設し、「地域の活動＝はまっこサポート」の意識が芽生えてきた。後期生徒の約3分の2が地域活動のボランティアに参加し、大人と子どもが一緒に地域を盛り立てている。また、「はまっこ・夢・大学」を開校し、第2回は、初回参加者の60%が出席した。この取組は良いと思う(大人77%、児童生徒88%)・次回も参加したい(大人72%、児童生徒53%)と次につながる取組であった。肯定的な感想が多く、地域のボランティアをしても良いという声も上がってきている。徐々に地域の方々に運営をお任せし、「地域とともにある学校」の実践の大きな核にしていきたい。
千葉	松戸市立東部小学校	子どもの学びによりそい、表現力を高める指導のあり方 ～児童一人ひとりがイメージを具現化できる題材開発・指導の確立～	1. 一人ひとりが多様な表現ができる題材を開発することができた。その結果、素材から自分で選び考えていく作品づくりの過程に、児童の意欲的に取り組む姿が見られた。 2. ICTを活用して様々な表現方法や見本作品を提示する時間を十分に確保することで、作品へのイメージを膨らませることができた。制作計画を提示することで、ゴールへの見通しを持つ有効な手立てとなっていた。 3. 制作の途中で途中鑑賞を行ったり、他の児童の作品の工夫を紹介する時間を設けたりすることで、新たな視点に気づき、付け足しや再挑戦を行う姿が見られた。 4. 場の設定の工夫が見られ、児童が主体的に作品づくりに取り組みやすい場の設定をすることにより、作品づくりに集中することができた。
千葉	柏市立酒井根東小学校	多様化する子供に対応する指導体制の工夫改善 ～小学校における一部教科担任制の導入を通し、チームで取り組む教育課程づくり～	1高学年一部教科担任制の導入により、児童の生活に安定感が増し、学級内の人間関係が良 好な状態に保てるようになった。また、学力状況に改善が見られ、学力調査結果で確認できた。 2教科担任制の導入により職員チーム意識が高まり、校務分掌にプロジェクト型組織を取り入れることができ、授業改善・外部人材活用・広報公表活動の3点を中心に教育課程の工夫改善が進んできた。 3先進校視察及び外部人材活用の優秀校への視察を積極的に実施した結果、モジュール時間 間に大学生が入った外国語活動を教育課程に位置付けたり、地域ボランティアによる図書館管理を制度化したり、社会に開かれた教育課程に向けた取り組みが実現してきた。
千葉	印西市立原山小学校	自分の思いや考えを伝え合うコミュニケーション活動 に取り組む児童の育成 ～外国語活動の実践を通して～	28年度から3年間の指定で、印西市教育委員会から外国語活動研究推進校の指定を受け、新学習指導要領の主旨やグローバル化に対応した新しい英語教育をめざし、特に楽しく使える授業形態の工夫、教材開発、日々児童が楽しく英語を使える場面の工夫を行った。 英語に慣れ親しむ場面設定、自己表現活動、評価方法を考案しつつ、全教育活動でコミュニケーション活動の日常化を図った。日々の実践を通して、コミュニケーション活動に対する児童の自己肯定感が育成され、思いやりの心が育ち、落ち着いた生活へと変化している。英語教育において、豊かな心でお互いを尊重し認め合い、人との繋がりを重視したコミュニケーション活動を基盤としながら、児童の確かな学力、生きる力を育むことができてきた。これからの英語教育の在り方を見直す絶好の機会となりました。
千葉	いすみ市立太東小学校	投運動の基本的な動きを身に付ける体育学習 ～低学年における運動遊びの実践を通して～	1. 体育授業として「投運動の運動遊び」授業実践プログラムを行った結果、投動作技能が、男子女子ともに有意に変容した。 2. ソフトボール投げ記録が、男子女子ともに有意に向上した。記録の伸び率は、男子+37.6%、女子+45.2%であり、本研究と条件設定に近い先行研究の結果を大きく上回った。 3. 男子よりも女子の方が、投動作、投能力とも大きな変容が見られた。 4. 男子女子とも、上位群児童よりも下位群児童の方が、投動作、技能力とも大きな変容が見られた。 5. 形式的授業評価において、好ましい変容が認められた。
千葉	木更津市立木更津第二小学校	「時代を生き抜く力」の育成のための一考察 ～行きたい、通わせたい、働きたい学校を目指して～	1 職員の変容 (1)「子どもたちが毎日登校することは当たり前のことではない」と捉える姿勢が出てきた。 (2)子どもたちに問題が起きた時に、その背景を探るようになってきた。 (3)休み時間に校庭で子どもと過ごす職員が多くなってきた。 (4)見た目ではなく「子どもの成長」という目的を意識した取り組みが増えてきた。 (5)職員室の雰囲気柔らかくなった。 (6)「あたりまえ」という頭文字から標語が生まれた。 「あ」=ありがとうを忘れない 「た」=大切にしよう友だち 「り」=立派な返事、気持ちのよい挨拶 「ま」=まもろう ルール 「え」=笑顔で始めよう、自分にできることから (7)子どもへの声かけも、「あたりまえのことができてえらかったね」等、意識している職員が増えた。 2 児童の変容 (1)教室の移動や集会への参集時の私語が少なくなった。 (2)低学年にやさしく接する児童が増えた。 (3)あいさつがよくできるようになった。 (4)木二小の約束を守る児童が多くなった。 (5)黙々と掃除をする児童の姿が増えた。 3 保護者の変容 (1)各学年の行事(親子学習会や町探検等)への参加、協力者が多くなった。 (2)学習支援ボランティアが多くなった。(家庭科実習の手伝い、音楽学習の手伝い等)

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

千葉	千葉県立松戸特別支援学校	子どもの生きる力をはぐくむ授業・生活づくり ～寄宿舎での外出を通じたライフキャリアの指導 教材・教具の活用～	1. 3つのグループに共通して言えることは、トレーニングマップを見てトレーニングコースを回り実態別に分けたことで、個々の課題(チェック項目)が明確にしやすかった。 2. 検定シートや練習シートをPDCAサイクル表で確認してきたことで、個々の課題に対する指導員間の共通理解を図ることができた。 3. 舎生の実態に合わせて教材・教具を使っていくことで、主体的に学ぶ場面を設定しやすかった。
千葉	旭市立三川小学校	自ら考え、表現する力を育てる国語科学習 ～「書くこと」の指導を通して～	1. 付けたい力や実態に応じて、複数の見本例を提示したり、ワークシートを用いたりすることで、児童は書き方について理解し、主体的に自分の力で書くことができた。 2. 必要に応じて交流する場を設定することで、児童は互いの書き方や良さに気づき、表現について考えることができた。また、書いた作品を読み合うことで、書く意欲が高まった。 3. 児童は普段から書くことに慣れ、説明を書いたり、作文を書いたりすることが上手になってきた。作文では、構成を考えて書いたり、題名を工夫したりすることができた。
東京	練馬区立石神井西中学校	豊かな人間性と確かな学力を身に付け、自己実現 を図ろうとする児童生徒の育成 ～練馬区型小中一貫教育の研究を通して～	本校では、「豊かな人間性と確かな学力を身に付け、自己表現を図ろうとする児童生徒の育成」を研究主題に掲げ、練馬区型小中一貫教育の実践を通して研究を進めてきた。2年間の実践・研究を通して次のような成果が得られた。 ① 小中合わせて9年間の各教科の学習を継続したものと見直し、課題を改善するプログラムを作成し、授業内容の精選や指導方法の工夫に役立てることができた。 ② 小中一貫したキャリア教育と生徒指導について、子供の発達段階を踏まえた指導に関する系統図を作成し、教員の共通理解・共通実践に役立てることができた。 ③ いじめ防止や挨拶の奨励など、児童生徒の交流活動が活発化した。
東京	小金井市立小金井第三小学校	主体的に生活を創る子の育成 ～信頼をベースにした学級づくりを通して～	<子供たちの変容> ・友達と関わる機会が増えたことで、子ども達同士の理解が深まり、教室の中に受容的な雰囲気を作られてきた。 ・対話的活動を積み重ねることで、子供たち同士で対話が続くようになった。 ・「聴き合うこと」を大切にできたことで、学級に話し合う文化が生まれてきた。 ・学級の課題を自分達で解決していこうという意識が芽生えてきた。 <教師の変容> ・教師の学びは、子供たちの学びとつながっていることを実感できた。 ・実践レポートの交流やラウンドスタディを用いた授業の検証を行うことにより、授業や実践について語り合う土壌が生まれてきた。 ・教師間で実践や手立てを共有する機会が増えた。
東京	千代田区立昌平小学校	読む力を育てる ～読書活動を取り入れた単元開発を通して～	本校の研究は児童に「論理的思考力の基礎を培う」こと、その為にはより多くの良書や資料、辞書等を通して文字に触れていく必要があると考え国語科の指導の工夫と連動させ、読書活動にも取り組んできた。国語科でも、本校は特に説明文を中心に指導の工夫を行ってきた。いくつかの指導事項のなかで、「伝え合い・学び合い」が論理的思考力の育成に大切だと考え、教師の発問に対するペア学習、グループ学習、全体での話し合いと、進める流れをどの学年も実践してきた。今回の教育基金をいただき、「学ボード」という話し合いの時に使用するボードを購入していただき、どのクラスでも普段の授業で便利に使用することが可能になった。
東京	調布市立国領小学校	読む活動を基に、自分の考えを表現する児童の育成	1 叙述を掲載した学習シートを工夫したため自分の考えを再構築する児童が増えた。また、交流の際にサイドラインを引いた場所を確認しやすく、同じ根拠でも理由が違う等の友達との相違点に気づきやすくなった。 2 発問を精選し、一人読みの前に考える視点を明確にすることで、児童が自分の考えをもつことができた。叙述と叙述、場面と場面や、物語と自分とを比較したり、関連付けたりして読むことで読みを深めることができた。 3 叙述(根拠)を基に自分の考えをもち、その理由を既習事項や生活体験と結び付けて対話をすることで読みを深めることができた。児童が活発に話せるようになり、他教科でも活かせるようになった。
東京	府中市立府中第九中学校	豊かな人間関係を通して、思いやりの心を育てる教育の推進 ～自分を大切に、他の人も大切に活動を通して～	○2年間の研究の結果、教職員の人権感覚が向上し、生徒との信頼関係づくりに生かすことができた。 ○各教科や道徳、特活、総合的な学習の時間等を通して人権課題について学習し、人権感覚を磨く活動を意図的・計画的に行うことで、他者を理解し、認めるとともに自己受容の意識が高まった。 ○他者との協調、協働を図る活動を言語活動と関連して行うことで、生徒の「思考力・判断力・表現力」が伸び、学力も向上した。また、生徒の自己肯定感が向上した結果、都、全国平均を大きく下回る無答率であった。 ○地域とともに行う継続的な人権教育の結果、「関係の中での自己」の肯定的評価が非常に高く、協調性が高く、思いやりの気持ちが強くなった。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

神奈川	横浜市立帷子小学校	豊かなかかわり合いを通して、コミュニケーションを楽しむ子 ～子どもが自分から伝えたいと思えるような授業の展開～	金曜日の朝の時間をEnglish timeとして、各学年、児童の実態に応じた活動やスマールトークを取り入れた活動を行ってきた。 子どもの実態に応じた文字に着目した単元を構成したり、リズムだけでなく視覚的なサポートを入れたチャンツの教材作成をした。Repeat after me.での復唱でなく、やり取りの中で会話をしながら繰り返すアプローチ等と研究を進めてきた。 ①高学年では、文字の音と形に慣れ親しみ、How do you spell?で聞いた5文字程のアルファベットを並べるなど、音と文字(綴り)、意味が繋がったと振り返る児童が増えた。また、慣れ親しんだ文字から絵本に親しみ、「思った以上に意味が分かった」と喜ぶ姿も見られた。 ②実践の場の一つである英語村や、タイからの体験留学生との交流の場では、これまで慣れ親しんできた語彙や表現を使って、英語で外国の先生方やタイの子どもたちと話す姿が今年も見られ、「国を問わず、英語を使うとコミュニケーションがとれることに気付いた」と活動を振り返ったり、また、「英語で話すことが楽しい」と振り返ったりした児童が多かった。 ③一方で、実際の交流を通して他者を受容する態度が育ってきている反面、授業中のアクティビティ等、与えられた場面では自分から話しかけることはできるが、実際の場面では、自分から進んでコミュニケーションをとることに戸惑う様子も見られ、また、子どもの発達段階でもコミュニケーション上の課題が異なることが見えてきた。
神奈川	川崎市立古市場小学校	自ら課題を見つけ、ともに学び合う力の育成をめざして ～生活科・総合的な学習の時間における、よりよい関わりを通して～	1. 研究協議にグループによる付箋紙法(KJ法)を行ったことでの活性化が図れた。また、記録を残すことで研究が引き継がれ、共同研究になってきた。 2. その分野で造詣の深いゲストティーチャーを招いて子どもたちがふれあうことで、課題を進んで見つけることができた。自分で見つけた課題に対しては、意欲的に取り組ませることができた。 3. 単元の学習の見通しを持たせることで子どもたちに主体性が芽生えてきた。話し合い活動にも自信をもって話せていた。また、相手の意見を聞こうとする態度も見られ、話し合い、聞き合えるようになってきた。
神奈川	横須賀市立田戸小学校	「チームを育てる・チームで育つ」カリキュラム・マネジメント ～外国語活動を通じたコミュニケーション能力の育成をめざして～	1. 学校教育目標の実現に迫るための外国語教育における育てたい力を明確にし、その力を教科等横断的な視点を踏まえて教育課程全体を通して育ててく「カリキュラム・マネジメント」の流れが確立できた。 2. 児童の外国語教育に対する目的意識の育成や、外国語を使う必然性を生み出すカリキュラム編成などを通して、児童に主体的な学びを形成していくためには、週2単位時間の学習が有効であることを検証できた。 3. 児童の外国語教育で培ったコミュニケーション能力が、他教科の学習や校内外の活動でも生かされるようになった。 4. 授業前の指導案検討会や授業後の活発な研究協議が個々の教員の授業力向上をもたらした。 5. 本研究のベースを担った小中一貫今日一句の取り組みが、さらに磨かれより実践的なものになった。 研究を通して、「授業が変わる！子ども・教師が変わる！学校が変わる！」を実感した3年間。 この研究の真価が問われるのは、まさしく新学習指導要領がスタートする平成32年以降であることを強く感じているところである。これからも、チームとして目の前の一つをたいせつに、一步一步、歩を進めて行く所存である。
神奈川	平塚市立大野小学校	共に学ぶ楽しさを味わう子をめざして ～豊かな表現力を育てる国語科の学習活動～	本校では、「豊かな人間性とたくましい行動力のある子どもの育成をめざす」を学校教育目標として、研究テーマのもと昨年度より、国語科を窓口として研究を進めてきた。 昨年度は、授業研究を通して、様々な場面の子ども達の様子を見合うため、各学年の実態に応じて、自由に領域・単元を選んで授業実践を行った。豊かな表現力を育てていくためには、目指す子ども像を明確にして系統性を意識した指導を積み重ねていく必要があると感じた。そこで、本年度は、領域を「話すこと/聞くこと」に絞って研究を焦点化し、各学年の実態に応じた取り組みの検討・実践を重ねた。子どもの実態から目指す子ども像を設定し、子ども達がしっかりと思いや考えをもち、伝え合うことができる場面を意識して授業づくりに取り組んだ。その結果、「話すこと/聞くこと」の形式的な取り組みや態度を徹底させることが中心となったが、6年間通しての系統性ある指導とその手立てをまとめることができた。さらに伝え合う力を高めていくためには、形式にこだわらず、柔軟な対応をしていくように有効な手立てが必要であることを確認し、サブテーマを再検討した。 今後も教職員の共通理解のもと、言葉で伝え合うことに楽しさを感じる子をめざして研究に取り組んでいきたい。
神奈川	葉山町立葉山中学校	学び合う力を育む指導の研究 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを通して～	1. 約8割の生徒が「授業をわかりやすい」と感じていることから、「ユニバーサルデザインの視点」を取り入れた「わかりやすい授業」の実現について、概ね達成できた。 2. 全教員の一人一回以上の授業公開をおとして、「わかりやすい授業づくり」についての意識が高まるともに、研究協議の活性化を図ることができた。 3. 「深い学び」を実現する言語活動とは何か、校内研究の成果をいかに自身の授業改善につなげていくかなど、形だけではなく本当の意味での「わかる授業」を迫及する姿勢が、一人ひとりの教員の中に生まれた。
神奈川	大磯町立大磯中学校	「やらされる」から「やる」授業研究へ ～授業研究は、「楽しく」「分かりやすく」「軽く」～	「授業」というキーワードを共有したコミュニケーションが円滑になることで、職員間の連携が強まった。そして、結果的に授業研究が負担だと感じていた教員の意欲も高揚してきている。 本研究では授業研究に取り組む風土づくりを、次の6つのカテゴリーに視点を当てた。 ①教科を超えた「組織」 ②課題の「共有」 ③グループで授業を考え提案する「方法」 ④アドバイザーや他校との「連携」 ⑤実践に生かしながら「継続」 ⑥「業務」軽減 である。 授業研究は「楽しく」なければやろうと思わないし、「分かりやすく」なければ広がらないし、「軽く」なければ続かない。今後も、「やらされる研究」から「やる研究」への工夫・改善を続けていく。 「研究は、楽しく、分かりやすく、軽く」を合言葉にして…。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

神奈川	南足柄市立南足柄中学校	思考力、判断力、表現力が高まる指導法の工夫 ～豊かな言語活動をめざして～	全生徒を対象に実施した「学習に関する意識調査」で「〇〇の授業はわかりやすい」という質問を実施した。調査を開始して以来、約80%の生徒が授業に対して肯定的な評価をしている。 今年度は数%であるが、肯定的な評価をした生徒が増えた。これは教師全員が年1回以上の研究授業を行い、放課後に研究協議をもつことで授業改善を図ってきた成果と考えられる。 また、一人あたりが平均して約10回研究授業を参観し、教科の枠を越えて協議することで、多面的に授業を見つめなおす機会を得た。教科の枠にとらわれずに研究協議をすることは、新しい視点でのアイデアを得て、他教科の授業実践を自分の教科に反映することにつながった。
新潟	上越市立大町小学校	他者とつながるコミュニケーション能力の育成	研究活動を通して、次のようなコミュニケーション活動や外国語活動の在り方が見えてきた。一つは、自分のことを伝え合うコミュニケーション活動である。二つは、必然性のあるコミュニケーション活動である。三つは、「聴く」ことを重視する外国語活動である。 研究活動を通じ、ことばや思いが他者とのつながりの中で生まれ、多様なコミュニケーション活動を通して、英語表現が獲得されていく過程を子どもの姿から実感してきた。また、高められた英語表現が、コミュニケーション活動の中で機能し、コミュニケーションやコミュニティを、より豊かにしていく活動を見てきた。 私たちは、外国語活動において、英語表現を直接的に育てようとするよりも、目的的で相手意識のあるコミュニケーション活動を繰り返す過程で、英語表現を教えることを大切にしてきたのである。
新潟	十日町市立十日町小学校	かかわり合い 考え抜く子どもの育成 ～アクティブラーニングの手法を生かした「学びに向かう力」をはぐくむ授業をめざして～	1 「主体的な学び」を生む学習課題、単元構成 実物に触れないバーチャルな活動を組むことでも、子どもは経験を重ねる度に当事者意識を高めていった。失敗した体験は、課題をより切実なものに変えた。教師から与えられた課題達成のために考えるのではなく、子どもが自ら達成したい課題のために考え抜くという姿勢に変化した。 2 「深い学び」を生む学習活動 アクティブラーニングの視点から学習課題、単元構成を工夫することで、子どもたちは、正解が一つではない課題に取り組み、子どもたちが将来、実社会の中で出会うであろう、未知の課題を解決する力につながる「学びに向かう力」を育めることが明らかになった。 3 日常的な交流活動から生まれたかかわり合い考え抜く子どもの姿 出会いと関わりの場を踏む中で、一人一人が「自分ごと」とらえ、関わり方を自分なりに考え実践し、また次の関わりに生かす姿が見られた。
新潟	十日町市立下条中学校	自分で考え、主体的に行動できる生徒の育成 ～「みつめる力」の向上を柱としたキャリア教育をとおして～	1. 職員の力量向上 キャリア教育が、効果的な手法であるという意識を強くした。また、キャリアカウンセリングによって、生徒に語らせる場面が多くなった。生徒が「失敗」することも想定しつつ支援するため、職員同士の密なる連携と、保護者との適切な情報交換を工夫して進めるようになった。 2. 生徒の成長 自分の得意・不得意を、自覚して、失敗を恐れず果敢に挑戦し、さらに失敗から再挑戦する姿が多くなってきた。一人一役活動を通して、消極的であった生徒も、全校生徒の前で活動をアピールするなど、苦手なことにも前向きに取り組む姿が見られ、主体的な行動力が高まってきている。
新潟	新潟市立横越中学校	自主・協同学習による「学び合い」を取り入れた授業の工夫 ～数学的に表現する能力を高めることを目指して～	1. 学習課題に対する問題意識を高めるための手立てについて 生徒間の交流により、平行線と面積の関係の既習事項をグループ全員で理解しながら、見通しをもって、進めることができた。話し合いが苦手な生徒も、個人活動・グループ学習に意欲的に参加しようとする姿勢が見られ、等積変形のよさを実感できた。 2. どの生徒にも分かる授業をするための手立てについて 四角形を分ける補助線の引き方や面積を等しくする平行線の引き方を交流し合い、解決法に気づいた生徒が中心となって、実際にホワイトボード上で作図をしながら、班員に考え方を説明した結果、補助線や平行線の引き方に気づけた生徒が多く見られた。
富山	富山市立東部中学校	学力向上のための「学び合い」による授業改善	1 研究結果 (1)平成28年11月実施学力調査(1年次)の結果と平成29年4月実施学力調査結果(2年次)を比較すると、6.19点伸びが見られた。学力層別に比較すると、下位層(上位から90%以下の生徒)における伸びが7点以上見られた。 (2)無答率は、0.56%下がり、学力が向上した生徒と無答率が低下した生徒はほぼ一致していた。 2 考察と今後の課題 生徒へのアンケート結果によると、88%の生徒がグループ学習をする前より分かるようになったと答え、76.5%の生徒がグループ学習を中心とした「学び合い」を望んでいることが分かった。しかし、学校全体で見ると、グループ学習を授業に取り入れている教師にばらつきがあり、全教員が一致して同じ取組をすることが課題と言える。
富山	高岡市立万葉小学校	ふるさと万葉の未来を担う子供の育成 ～ふるさと教育の推進～	1. 地域の教育資源の再発掘に努め、教員自らが地域に出かけ、地域の人と交流を深めることで、今まで当たり前前に受け止めていた地域環境に目を向け、ふるさと教育の視点から新たな単元を開発していくことができた。 2. 福祉や防災、環境保全等、地域の今日的課題を取り上げて単元を構成することにより、子供が地域の一員としての自覚をもち、問題を自分事として捉えて実践していくことができた。 3. 地域を「学びの場」として子供たちが地域に出かけることで、地域が活性化し元気になる。また、子供たちは、地域住民や専門家から直接評価を受け取ることができ、自分の取組に自信をもつことができた。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

富山	南砺市立福光東部小学校	自らを勇気づけ よりよく生きる子どもの育成 ～チームとしての学校の力を高める試み～	1 すべての教職員が目標を共有してそこに向けて力を発揮していくなど、全職員が取り組みのベクトルをそろえることによって、チームとしての学校の力の高まりとともに、一人一人に組織人としての大きな成長が認められた。 2 教職員チームの成長が子供たちの望ましい変容を生み出し、子どもの成長が教職員に意欲をさらに高めるという望ましい相乗効果によって、学校の力が大きくなり、保護者・地域からの信頼と評価が高まることとなった。また、子供たちが学校づくりに参画する意識をもてる取り組みによって、意欲的な姿や友達との温かい関わりなど、子供たちにも大きな変容が認められた。
富山	富山市立大庄小学校	生活習慣を振り返り、健康な生活を送る子供の育成 を目指して ～「メディアコントロール」の取組から～	1 実践を継続的に行うことで、家族みんなでメディアコントロールについて考えるようになり、自分の生活を見直そうとする意識が高まった。 2 メディアコントロールのよさ(「気持ちやすっきりするようになった」「行動が早くなって、よい時間がとれた」「テストで集中できるようになった」「家族で過ごす時間が増えた」)を感じる子供や保護者が増え、引き続き取り組んでいこうとする家庭が多くなった。 3 わずかな時間でもメディアから離れた生活を送ってみることで、自分で考えた遊びをし、人と関わることの楽しさを感じとったり、家族での会話が増えた実感したりするなど、新たな気付きをする子供が増えた。
石川	内灘町立向栗崎小学校	学校力向上を目指した教職員の育成 ～一人の十歩に勝る十人の一歩一歩で進む指導力向上への取組～	1. 組織力の向上 ・1年を3回のPDCAサイクルで進める「学力向上ロードマップ」により、実践の足並みを揃えることができた。 ・取組に達成指標を設定することで、目標が明確になり共通実践が進んだ。 2. 若手の授業力向上 ・「向小授業スタイル」をもとに授業づくりを行い、若手にも45分の授業構成力が身についた。 ・教材研究に役立つデータを集約した「向小授業アシスト」で、教材研究の効率化が図られた。 ・自己課題を設定し、週1回の参観授業で、指導助言を受け自己評価を積み重ねることで授業改善が進んだ。 3. 取組の見える化 ・児童と目指す姿を設定し、全学級が取組の足跡を「成長年表」に残すことで、常に目標を意識した取組ができた。
石川	石川県立羽咋工業高等学校	規範意識の向上をめざして ～「TEAM羽工」という意識で取り組む「挨拶運動」「一日一善運動」で、いじめを見逃さない学校づくり～	1 生徒の基本的な生活習慣が確立し、規範意識に基づいた行動様式が確実に定着してきた。 2 TEAM羽工放送部が「一日一善放送」を行い、その日の活動状況と感謝の気持ちを伝えている。このことにより「一日一善」の大切さを校内で「共有・共感」できた。 3 世代交代が進む教員集団の中で、これからの生徒指導を担っていく経験の浅い若手教員にとっては、貴重な体験であり契機になった。
石川	石川県立能登高等学校	学校、行政、地域社会の連携による三位一体の学校活性化の取組	能登高校では、「地域の活性化に貢献する人材づくり」を提唱し、行政・地域社会と連携して学校活性化に取り組んできた。公営の「鳳雛塾」や地域貢献活動、プロジェクトチームによる学力向上、情報発信力の向上、そして「能登高校魅力化プロジェクト」「能登高校を応援する会」による活動は「進路実績の充実」「入学希望者の増加」「学力の向上」という形で結実しつつある。また地域の人々のつながりや課題に主体的に向かう姿勢も醸成されつつある。普通科、地域創造科の二つの科を持ち、文系・理系・福祉・水産・農業・商業と六つの分野を学ぶことのできる本校の特性、寮、全国レベルの部活動実績など、本校の特色を生かし「6次産業」をキーワードに少子化の進む地域の未来を一人ひとりが今後も考えていく必要がある。
長野	長野市立北部中学校	自らが課題をもって夢中になって追及する体育学習とは ～友とかかわりながら、運動を学ぶ授業に焦点を当てて～	1 大規模校である本校の現状に対応した条件整備と、思考判断(わかること)・技能(できること)の学習成果を求めた教材を積極的に導入したことで、多くの生徒たちが夢中になって運動学習に取り組めるようになった。 2 友との関わり充実するように、態度目標を精査して具体的な行動様式を学習内容として設定したり、ペアやトリオ、グループ学習を取り入れたりと、共に学び・高め・支え合っていく学習の良さを味わう生徒が増加した。 3 自分の、自分たちの、学習成果を実感することで、運動学習への動機付けが高まってきたと思われる。
長野	伊那市立高遠北小学校	ICT教育の充実により、表現力やコミュニケーション能力を高め、社会と関わり、主体的に発信していくこととする子どもを育成する試み	1. 交流学習による相手意識をもった「話す、伝える、聞く」というコミュニケーション能力の向上 2. 人間関係が広がっていくことの実感と喜び 3. ICT教育の可能性と子ども達の学習意欲の高まり
岐阜	海津市立西江小学校	自分で考えて行動する児童の育成 ～異学年集団の活動を中心にして～	1. 自分で考えて行動する力をつけるために、異学年集団での活動が有効である。 2. 異学年集団での活動は、清掃活動や8の字縄跳びなど、年間を通じて行う活動が効果的である。 3. 異学年集団での活動のうち、運動的な活動は、時間や回数など、数値で比較ができるものにする、児童の意欲が高まる。 4. 異学年集団での班は、運動会の団編制と関連付けるなど、学校全体で行う行事でも生かせるようにすると効果が上がる。
岐阜	美濃加茂市立山手小学校	自らの生命を守るために必要な事柄を知り、主体的に判断し安全な行動ができる児童の育成 ～さまざまな自然災害等に備えて～	① 緊急地震速報や火災報知器に応じて、すばやく安全な行動を取ることができるようになり、子どもたちの防災に対する意識が向上した。 ② 授業を通して、自分の命を守るためには学校や家庭での生活の仕方や環境を見直す必要があることに気付き、どのように行動したらよいのかを真剣に考えたり、家庭に広げていこうとしたりする姿が増えた。 ③ 防災意識調査では、地震が起きた時にすぐに命を守る行動がとれたり、災害時に集まる場所を決めていたりする家庭が増加している結果から、体験活動を取り入れた本校の継続した指導が、子どもの意識が行動を変えるだけでなく、保護者の意識まで変えることにつながった。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

岐阜	多治見市立笠原小学校	生き生きとコミュニケーションを図る児童の育成 ～小学校外国語の教科化への対応～	<p>① 単位時間の導入時に低学年は歌やチャンスを、高学年はSmall Talkを含むSmall Activityを位置付けることによって、英語に慣れ親しみながら既習内容を復習することができ、習熟・定着の成果を上げることができた。</p> <p>② ActivityとActivityの間の中間指導において、表現したいことはあったが言い方がわからずに困った児童の声を拾ったり、正しい表現でやりとりができていない例を挙げたりした。そして、既習内容で表現できる時には児童に問い返して確認したり、新しい表現の時には正しい表現の仕方を紹介したりすることによって、定着が効果的に行われた。</p> <p>③ 音声による指導の後に文字による指導をしたり、文字についてのミッションを与える教材を学習したりすることによって、文字の定着を図ることができた。</p>
岐阜	瑞浪市立陶小学校	自分で考え判断して生活できる子 ～人・もの・お金の大切さがわかり、感謝や自立の心を高める授業の工夫～	<p>○金銭教育により、児童は自分に関わる「人・もの・お金」の価値について考えることや家族や地域の人への感謝の気持ちが強くなった。</p> <p>○教師が「人・もの・お金の価値」「選択の視点」「思考の広がり」について教材研究をすることで、児童が生活に結び付けて深く学ぶという授業づくりをすることができた。</p> <p>○家庭の協力を得て実践の場を設けることで、児童の実感を伴った理解につながった。家族の仕事に興味をもち、自分の将来について考えることができた。</p> <p>○陶町の文化「焼き物」を核にした地域題材開発により、ふるさと陶に誇りと愛着をもち、地域と共に生きる力を育むことができた。</p>
岐阜	岐阜県立池田高等学校	呼びおこせ 地域の力 ～広げよう 綺麗な水のある環境～	<p>① 生徒の環境保全意識の高揚 汚水の減量や節水の工夫について考えることができ、この内容をリーフレットにまとめることができ、生徒・教員に広めた。</p> <p>② 地域との連携 町のイベントに参加し学校全体だけでなく地域の方々にも啓蒙することができた。</p> <p>町ぐるみで取り組める運動になるとよい。</p> <p>③ 各種イベントに参加 家庭クラブの活動を各種フォーラムやイベントで紹介することで多くの方々に知っていただけ、互いの情報交流になり、協働できる輪が広がった。</p>
静岡	浜松市立追分小学校	どの子ども「楽しい」と感じられる学校づくり ～一人一人を大切に健康教育・インクルーシブ教育を基盤として～	<p>1 研究の趣旨 本校は、創立93年目、児童数180人余りの小規模校(通常学級6 特別支援学級5、ことばの通級指導教室4)である。校区は、市内屈指の文教地区にある。地域が学校に寄せる期待が高い。児童は明るく素直であり、進んできまりを守ろうとする意識が高い。平成29年度には「全国健康づくり推進学校優良校」に選ばれるに至った。さらに、合理的配慮について計画的に進め、医療的ケアについて先進的な取組をしている。以上のように教育環境・条件が整ってきつがあるが、「やさしさ かしこさ たくましさ」のバランスのとれた教育活動が一層必要となり主題を設定した。</p> <p>2 研究の成果 3月に入り、欠席ゼロの日が続いている。一時は登校をつらかった児童も友達と仲良く登校できている。「勉強が分からない」とつぶやいていた児童の笑顔も見られる。このことは、研究題目(どの子ども「楽しい」感じられる学校づくり)に近づいた表れと捉えている。また、静岡県下で初めて「医療的ケア」に伴う看護師が配置された。本校の歩みが、「浜松モデル」「追分モデル」として、各校に広まっていくことを願っている。</p>
静岡	浜松市立芳川北小学校	学校教育目標「ともに輝き 生き生きしている子」の具現 ～「知」「徳」「体」3つのバランスのとれた子供の育成	<p>1 「カリキュラム・マネジメント」にすべての教職員が責任を持って取り組み、積極的に教育活動を展開したことで、教職員はもとより子ども「学校教育目標具現」に対する意識が高まっていた。</p> <p>2 「知育」「徳育」「体育」各部の実行プランの進捗状況を定期的に評価・検証してきたことで、教職員間のつながりや目的意識が高揚し、学校の組織力や教育力が向上していった。</p> <p>3 学校教育目標の具現に向け、「知育」「徳育」「体育」3つのバランスのとれた教育活動を展開したことで、特に「徳育」と「体育」で、昨年度を上回る成果を上げることができた。</p>
静岡	浜松市立相生小学校	風の子・太陽の子の育成 ～かかわることで高める体育の実践～	<p>研究主題に迫るために、PDCAサイクルによる実践、資質・能力をはぐくむ方策としての授業改善、教師の指導行動の見直しに取り組んできた。その成果として、</p> <p>①講師を招聘し、理論的根拠を持つことで、授業改善の意識が高まり、子供の姿容を促すことができた。</p> <p>②めあての提示、振り返りの実施、協働的な学習などを通して「体育が好きだ。」という子を育てることができた。</p> <p>③運動への多様な関わり方を経験させることで、新体力テストに向上が見られた。</p> <p>④教師相互の関わりを促進することで、同僚性を醸成することができた。</p>
静岡	静岡県立駿河総合高等学校	外来生物スクミンゴガイの駆除を目的とした教育研究 ～生徒たちの外来種問題への興味・関心の高揚へ向けて～	<p>1) 2000mlビーカーを6個用意し、それぞれ1%、2%、3%、4%、5%の濃度となるよう調整した。対照区として塩分0%も用意した。</p> <p>2) 0psuでのスクミンゴガイの生残率は、96.7%～100%であった。塩分を10、20psuとすると実験終了時でも60～80%の個体が生残した。塩分を30psuとした場合では、実験開始から56時間後には、50～53.3%の生残率となり、96時間後には10%以下となった。塩分40、50psuでは48～96時間後には全滅した。</p> <p>3) 本研究はスクミンゴガイの駆除を目的として、本種の塩分に対する耐性をしらべようことを目的とし、その実験過程において、高校生の外来生物への興味関心を引き出すこととした。高校生は外来生物が水田などにいること、簡単に採集できることを学び、きわめて深刻な問題である外来生物の定着について深く考えることができた。</p>

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

静岡	磐田市立南部中学校	「対話」で人をつなぎ「技」を伝える校内研修 ～ベテランと若手・教科を横断する学習指導力～	1. ベテラン教員から学習指導力を学ぶ「若葉の会」を企画実践することにより、ベテラン教員と若手教員の対話の場にもなり、若手教員の悩みの解決に有益であった。また、教科横断的な指導法にも意識が向けられた。 2. 縦割りグループ研修と教科外授業参観グループの実践から、「学習指導力」を授業参観の視点として、教科横断的に他教科の授業を参観することは、「学習指導力の向上」に有益なものだったと考えられる。 3. 目指す生徒像である、「主体的に学習に取り組む生徒の姿」や「対話的で深い学びを実現する生徒の姿」についてベテラン教師と若手教師が意見を交換し、各教科グループで明確化し、共有した。その結果、全校生徒対象のアンケートの「関心・意欲」の項目において、9教科の平均で約2%の伸びが見られた。
愛知	弥富市立桜小学校	自己の問いかけを深め、より生き方を求める児童の育成 ～心の成長を実感できる道徳教育を目指して～	1. 資料を精選することで、話し合う必然性のある中心発問をつくり、ねらいに迫る授業を行うことができた。教室に対話空間が生まれ、それにより、児童は多様な意見に触れることができ、道徳的価値の理解が深まった。 2. 資料の提示方法を工夫し、中心発問1つで話し合うことで、対話の時間を十分に確保することができた。その結果児童は、自分の考えが及ばなかった異質な考えに出会い、自己との対話、他者との対話を通して新しい価値観を見出すことができた。
愛知	江南市立草井小学校	「楽しく学ぶ子・学ぼうとする子」の育成 ～授業づくりと家庭学習の充実を通して～	1. 「めあて」と「まとめ」の整合性をとり、「ふりかえり」を重視した指導過程をとったことにより、児童が思考の整理ができ、何を学んでいるのか明確になったため、「分かる・できる」を実感できる授業づくりができた。 2. 「ふりかえり」の中で「わたしの学び」として、毎時間本時の学習を個人で振り返ることによって、自分の考えや思い、学びを表現することができた。 3. 家庭と連携するために「家庭学習の手引き」や研究だより、学年通信などで保護者に啓蒙をしたり、授業と家庭学習のつながりを強化し、保護者を巻き込んだ取組にしたりすることで少しずつではあるが学力向上につながってきた。
愛知	春日井市立高森台中学校	ねばり強く主体的に学ぶ生徒の育成 ～ていねいで魅力ある日常の授業の実現を通して～	本校では、生徒の学力と学習意欲の課題の解決に向けて「ねばり強く主体的に学ぶ生徒の育成～ていねいで魅力ある日常の授業の実現を通して～」を研究テーマに取り組みました。 研究の柱を、日常的な授業改善とし、人間関係づくりや校内研修の見直し、学校体制の見直しをすることで、学校全体の質の向上を目指しました。そして、校内授業研究会を軸に、PDCAサイクルによる授業改善の仕組みを作り、全校体制で組織的・計画的・継続的に取り組みました。 本校の研究は、特別なことではなく、生徒や学校の実態に合わせて日常的に取り組めることを、全体で共通理解を図りながら少しずつ進めていきました。具体的には、教科担任制の中学校でも、教科を超えた授業づくりができるよう「集中させる・しっかり教える・つなげて考えさせる」ことをキーワードに、「校内授業研究会」「模擬授業」「授業を見合う週間」「教科部会」などを計画的に行い、日常的な授業改善を進めました。 これまでの成果としては、生徒の学習への集中や意欲の高まりが見られてきたこと、校内授業研究会を軸としたPDCAサイクルによる授業改善の仕組みが定着し、学校全体で取り組むことができるようになったことです。 今後は、整えてきたことをより良く確実なものとして、全体に定着させるよう地道に取り組む「集中させる」「しっかり教える」「つなげて考えさせる」のそれぞれの質を高めていきます。
愛知	犬山市立城東中学校	自ら探求し 仲間と高め合う学びづくり ～城中力を育む活動を通して～	身につけさせたい汎用的能力を具体化したことで、学び合う場面を設定するねらいが明確になり、自立した学びの実現に迫ることができた。また、汎用的能力の捉えを生徒と共有し、生徒が学びづくりに参画する手立てを講じたことで、よりよい授業のために自らはたらかける生徒の姿を引き出すことができた。城中力の高まりを生徒が実感できれば、城中力の価値が自覚化され、より高次のJ∞T(城中力を育む活動)の実現に結びつくと考えられる。汎用的能力の評価について工夫・改善を行う必要性が確認された。生徒が「城東中学校での学びで城中力を高め、将来、社会で生きる自分に役立てたい」というビジョンをもって学習や授業づくりに取り組めるよう、今後も研究実践を進めていきたい。
愛知	名古屋市立若宮商業高等学校	地理情報システムを活用した高校教育 ～商業高校での地理情報システムの活用について～	1. 地理情報システムの「観光」での活用 GISソフトを活用して、スマートフォンで古地図を見ながら発見学習ができるようになった。SNS観光マップに関する研究では、スマートフォンを用いて、生徒が観光情報を自ら発信することができる力が身についた。 2. 地理情報システムの「マーケティング」での活用 GISソフトを活用した商圏分析の方法を研究して、マーケティング教材の開発に活かすことができた。 3. 地理情報システムの「防災教育」での活用 GISのジオレファレンサー機能等についての研究により、浸水予測ハザードマップなどの教材作成のノウハウが身についた。
大阪	大阪市立南大江小学校	自ら学び、考え、意欲的に課題を解決しようとする 子どもを育てる算数科の指導法の工夫を通して	1. 算数科において、問題解決型学習に対応したノート指導を積み重ねてきた。そのことで、児童自らの力で、課題に対して見通しをもち、既習事項を生かしながら式・図・表などを駆使して、問題を解決できるようになった。 2. 自分の考えを発表する前に、ノートを使って説明の練習をした後、ペアやグループで交流することで、考えを意見として相手に分かりやすく伝えることができるようになった。その結果、自分の考えを整理したり、自分とは異なる視点に気づいたりすることもできるようになっている。 3. 児童のノートをタブレット端末やOHC、プロジェクトを用いて投影し、クラス全体で意見交流を進めることに活用することができた。
大阪	吹田市立山手小学校	☆山手小 平成29年度 重点プラン☆ (1)いじめのない、安心・安全の学校づくり (2)「自分の思いを自分の言葉で伝える教室」	いじめや暴力行為を含む一昨年度からの学級・学校の荒れ、児童・保護者の学校への信頼回復のため、「山手小平成29年度重点プラン」を掲げ、「(1)いじめのない、安心・安全の学校づくり」をめざし、いじめ防止プロジェクトを展開するとともに、本校学校教育目標のひとつである「(2)自分の思いを自分の言葉で伝える教室」を学年・学級目標の柱に据え、一丸となって取組を進めた。 今年度学校教育アンケート結果(児童・保護者対象)にはその取組結果が多くの項目で反映するとともに、学校全体の落ち着きと保護者からの応援の声を多数いただき、本来あるべき「山手小学校」の子どもたちの姿が具現化された。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

大阪	堺市立福泉南中学校	豊かな心をはぐくみ、調和のとれたたくましい生徒の育成 ～道徳の教科化に向かって今できること～	1, 堺市「子どもが伸びる」学びの診断において、本校中学2年生では「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた生徒の割合は93.1(目標値90)「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」と答えた生徒の割合は91.0(同85)で、いずれも目標値を上回っている。 2, 1月に行った「学校教育アンケート」保護者向け分、「先生は、子どもの間違っただけ行動を適切に指導してくれる。」「学校は、子どものことについて適切に相談に応じてくれる。」で、それぞれ5%と9%肯定的な答えが増えている。 3, 道徳が教科となる中で、研究大会や先生方の授業検討・研究授業はこれからの堺市の道徳教育の進展に有益になると確信する。
大阪	堺市立大仙小学校	聴き合い学び合う学びの創造～一人ひとりの学びの保障をめざして～ ～研修の成果や課題を明らかにし、授業改善や学校改革をする。～	聴き合い学び合う校内研修をめざすことで、以下の成果が得られた。 ①一人ひとりの学びを支えること 普段の授業を参観し、教室での子どもの事実をみることで、子どもへの関わりや授業実践での悩みや迷いを共感することができるようになってきた。 ②校内研修を通して同僚性を構築すること 校内研修の協議会では、参観者にも授業者にとっても学びが生まれるような場を展開することで、互いに支え合い励まし合って歩んでいけるような同僚性の構築が図れた。 これからも、自主的な公開授業研究会を開催することで、日常の授業を公開し、研修の成果や課題を明らかにし、授業の創造と学校の改革へと結びつけるようにしていく。授業実践を続け、教師としての授業の向上と子どもの学びを保障していきたい。
兵庫	加古川市立平岡東小学校	すべての児童がわかる授業づくりをめざして ～外国人児童の確かな学力向上とコミュニケーション能力の育成をはかり自尊感情を高める～	① 日本語指導教室で学習している来日間もない外国人児童の語彙量が増え、学力の向上が見られた。 ② 加古川市の多文化共生サポーターとの連携が図れ、学習言語の習得がしにくい外国人児童に対する学習支援ができた。 ③ 国際理解教育や人権学習を行うことで、マイノリティ、マジョリティ関係なく、互いの違いを認め合い、差別や偏見をなくしていく「気づき」を育てることができた。 ④ 職員人権研修を行うことで、同和問題を核として、外国人差別の問題や障がい者差別問題、男女差別問題などを意識して考えられるようになった。 ⑤ すべての児童にとって分かりやすい授業づくりである「教科指導型日本語指導」の研究を教職員全体で取り組むことで、様々な教科で挑戦する教師が増え、学びが深まり、教師の学校園自己評価の数値も高かった。 ⑥ 児童の生活適応感を図る学校環境適応感尺度(アセス)アンケートの結果から児童の学習適応感だけでなく、すべての因子の向上が見られた。
兵庫	丹波市立鴨庄小学校	自ら考え 学び合う 鴨庄っ子の育成 ～統計的思考を高める授業作りを通して～	1. 様々なグラフや資料を読み取る学習活動を継続してきたことにより、解決方法や考え方をデータにもとづいて書けるようになってきた。つまり、統計的知識・技能が身につくようになってきたと言える。 2. グラフの数値の変化から分析する力がつき、読み取ったことをもとに自分の考えを持てるようになった。統計的思考力が備わりつつあると言える。 3. 児童が興味を持ったことから、見通しを持てる課題を設定することで、主体的・継続的に学習に取り組むことができた。 今後も、児童の継続的な学びの時間を確保するために、教科横断的にカリキュラムを組むことが大切であると考えます。また、児童の主体的な学びにするために、児童の活動や思考を教師が予想し、見通しを持って課題解決できる授業作りを研究していくことが必要である。
奈良	奈良県立五條高等学校	地域と共にある学校づくりをめざして ～県立学校における「コミュニティ・スクール」の取組について～	1. 地域や社会の取り組みに対して、少人数のボランティアでは、生徒は主体的に取り組む必要があり、チームワークの大切さや諦めないことを学び、さらに、自分の役割や個性の発見に繋がっている。 2. 一般社会の人々と関わり、共に達成感を得られたことは成長段階の生徒には大きな自信となっている。また、地域の行事に参加することで自分たちが地域の担い手であるという自覚が醸成された。 3. 地域の活動に取り組んだことで、勤労観や職業観を感じ取ることができ、生徒の意識改革に繋がっている。自分の進路を考える上で新たな出会いを発見することで、目的意識を持ち、学習意欲の向上にも繋がっている。
奈良	天理市立北中学校	生徒たちが安全に安心して生活できる学校作り ～安全教育・指導の充実を目指して～	1. 本校の校区の現状を丁寧に見直し、登下校指導、巡視箇所を見直し、今まで行かなかった場所に巡視等を行ったことで付近の住民から今までに我々が気づくことのできなかった情報を得た。 2. 指導の明確化の足がかり。違反切符の仕組みの明確化することで、安全指導体制を全職員に知ってもらい実践してもらったためのきっかけができた。今後も様々な部分を明確化することでよりよい生徒指導体制が期待できる。
奈良	宇陀市立榛原小学校	全ての子どもが主体的に学び合う授業の創造 ～算数科を通してのアクティブラーニングの授業づくり～	1 CT機器等の活用により、授業の流れに沿った資料を効果的に示すことができた。また、発表ボード等の教具の活用により、問題解決の方法を自分なりに考え、表現しようとする意欲が高まった。さらに、ユニバーサルデザインシートの活用により、支援を要する児童に対する対応もできた。 2 発表が苦手な児童もペアやグループなら自分の意見が言えるようになり、対話的な学習の力が向上したと言える。また、「自分で問題の解き方を考えているとき」や「友達と問題の解き方を話し合っているとき」に「算数が楽しい」と答える児童が増加した。 3 基礎基本の充実のための方策として、宿題などの課題学習(反復学習)に取り組む一方で、学習意欲の向上を目指した自主学習にも取り組むことができた。学年の実態に合わせた自主学習の手引きも配布した。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

鳥取	鳥取市立修立小学校	つながり合い 学び合う 修立っ子の育成 ～めあてに向かってねばり強く取り組む授業づくり～	1. UD3原則に「そろえる化」を位置づけ、授業の足場づくりを明確にできた。 授業の前半(展開1)で学んだことは何かを全体で確かめる「そろえる化」をUD3原則に加えることで、授業の後半(展開2)の学習活動に向かう児童の意欲が高まった。 2. 1時間の学習展開を2つに分け、後半で「身につける」ための学習活動を組み立てることができた。 「そろえる化」で確認したことを活用しながら、展開2でしっかり「身につける」ための学習(適用題や応用題、発展問題)に取り組めた。 3. カードを活用した構造的な板書で見通しを持ちながら学習を進めることができた。 「め」カード(めあて)、「ま」カード(まとめ)、「ふ」カード(ふりかえり)を活用して、学習の方向付けや焦点化をすることができた。
岡山	倉敷市立南中学校	小中連携の視点に立って考える家庭学習と授業改善への取組 ～授業改革推進員配置の3年間を通して～	1. 家庭学習習慣の形成 ～自主学習ノート「夢ノート」～ ①「夢ノートをやってよかった」と79%の生徒が肯定的な回答。理由は、「習ったことを復習するから(74%)」「毎日勉強するから(38%)」。 ②毎日1ページに取り組んだと54%の生徒が回答し、33%の生徒もほぼやったと回答。この結果から、生徒の家庭学習習慣の形成に一定の成果があった。 2. 岡山型学習指導のスタンダードに沿った授業改善 ①「めあて」は87%「振り返り」は60%が実施。 そのうち、「めあてが行動目標になっている」のは91% そのうち78%が振り返りを文章表現させている。 ②6割の教員が自分の授業スタイルが講義式一斉授業からの変容を感じている。
広島	広島市立長東中学校	コストパフォーマンスを基にした、選択と集中による人材育成の改善	【要旨】 教職員の人材育成で、働き方改革を意識し、応用数学のナップサック問題※1を応用して、コストパフォーマンス※2による選択と集中を行う。雑談による良好な人間関係構築と、学校外の視点を重視した改善を進めれば、経営参画意識が育成され質の高い教育につながる。 ※1 ある容量のナップサックが一つと、複数の品物が与えられたとき、ナップサックの容量を超えない範囲でいくつかの品物をナップサックに詰め、入れた品物の価値の和を最大化するにはどの品物を選べばよいかという問題 ※2 費用対効果と表現され、ある製品やサービスの費用(コスト)と、それがもたらす効果や性能(パフォーマンス)とを対比させた度合い 【成果】 1 学校経営・人材育成でコストパフォーマンスなど学校外の視点を重視した選択と集中により人材育成の質的改善が図れ、主体的協働的な教職員の育成や校務改善が実現されるなど、学校経営参画意識が育成される効果があった。 2 校長自身がコストパフォーマンスの重要性を認識するなど、学校経営能力が向上した。 3 生徒の授業満足度や主体性、保護者等の信頼度が高く、質の高い教育につながった。 4 雑談による良好な人間関係構築は、多くの活動の基盤となった。
広島	福山市立春日小学校	小中9年間を見通した主体的・対話的な学びを目指した授業の創造	1 他教科・領域等と関連させた魅力的な単元計画 ・総合的な学習の時間と関連する他教科の単元とを結ぶことで、活動に必然性が生まれたり、他教科で身につけた知識・技能の活用場面となったりした。 ・地域・行政・企業などとの連携により、活動に目的意識をもって取り組むことができた。 2. 育てたい力を意識した手立ての充実 ・思考ツールを取り入れ個人の思考を可視化して話し合わせることでお互いの意見を比較したり関連付けたりしながら考えさせることができた。 ・地域の場所や人・物から課題を見付けさせ、調査対象を地域の人や物にすることで、地域に愛着をもち、よりよくする態度を養うことができた。
広島	海田町立海田西小学校	主体的に学ぶ児童の育成 ～NIEを活用した「課題発見・解決学習」の授業づくりを通して	1 単元構成において、ゴールイメージや学ぶ必然性をもたせることにより、児童は意欲を持ち、主体的に取り組むことができた。 2 単元・授業において「課題発見・解決学習」を設定し、かかわり合う場を取り入れることにより、自分の考えを出し合い深め合うことができた。今後はさらに、自分の考えに理由をつけて論理的に表現する力をつけることにより、自己肯定感も高めたい。 3 NIE(教育に新聞を)を活用することにより、新聞記事を読んで自分の感想や考えをもつことができるようになり、教室での学びが実社会とつながっていることを実感できた。
広島	竹原市立東野小学校	高い危機管理能力をもつ組織・体制づくり ～3年間の取組を通して～	学校が子どもたちにとって安全・安心な場になるように高い危機管理能力をもつ組織や体制づくりに取り組んだ。 1 危機対応マニュアルを使うから、使いこなそうとしたり、危機管理に関する知識・情報が増えるなど教職員の危機管理能力が高まった。 2 危機管理に関する知識・情報が増え、自分で考え行動する姿が多く見られるなど、児童の危機管理能力が高まった。 3 新しい企画・提案が多く出されるようになるなど、主任層を中心に、危機管理の取組が主体的なものになってきた。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

山口	柳井市立柳井南小学校	地域と共に歩む学校の創造	<p>1 学校と地域とのよりよい関係づくりのための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校が地域に働きかける 【地域懇談会(移動学校運営協議会)】1年次</li> <li>・ 地域が来校する(一堂に会して)【ふれあい集会】2年次</li> </ul> <p>2 取組の成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民の学校理解(ミニ授業体験等を通して)</li> <li>・ 取組の成果に基づく教職員及び児童の肯定感の醸成</li> <li>・ 授業の魅力の再確認(教職員)</li> <li>・ まちの将来を考える(児童)</li> <li>・ 業務改善推進へのきっかけ(学校)</li> </ul> <p>3 今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域連携を推進する取組の継続(教職員全員による共通実践に基づいて)</li> </ul>
徳島	吉野川市立森山小学校	聴き合い、伝え合う力を育み、確かな学力を育成する教育活動の推進 ～主体的に関わり合い、学び合う児童の育成を目指して～	<p>1 授業中の各学年の発表回数は増加し、自主学習も少しずつではあるが、高学年になるにつれて頻度も増加し、内容も工夫が見られる。また、朝の挨拶については、地域で評判になるくらい元気がよく挨拶できるようになるなど、この取り組みにより児童に主体的な生活態度が様々な場面で身に付いてきたことは確かである。</p> <p>2 授業中での「聴き合い、伝え合う力を育む」点に関しては、教師が工夫した課題設定を行ったこと、ワークシートなどを活用して意見や感想を述べやすくなったこと、人権教育を通して受容する態度の育成を図ったことなどで、充実した話し合い活動が展開されるようになった。</p> <p>3 平成29年度の全国学力学習状況調査の結果については、国語・算数とも全国平均を上回る正答率がほとんどの項目で得られた。これは、授業時における話し合い活動、子どもたち同士の教え合い、自主学習の積み重ねが影響しているものと考えられる。年度末に行った学校評価(児童)では、「授業がよく分かる」という項目では90.8%で前年度より3.5ポイント上昇した。</p>
徳島	上勝町立上勝小学校	基礎学力の定着とコミュニケーション能力の育成	<p>読書活動の充実と、地域と一体となった豊かな体験活動により、子どもたちの学力の向上とコミュニケーション能力の育成を図ることをめざして研究実践に取り組んできた。</p> <p>読書活動に力を入れることにより、子どもたちの語彙力や読解力、文章構成力を伸ばすことができた。また、地域の特性を生かし、様々な人とつながる豊かな体験活動を実施することにより、子どもたちの気持ちを伝える意欲を育てるとともに、よりよく人とつながろうとする姿勢を育てることができた。</p>
徳島	上板町立高志小学校	エシカル消費者の育成を通してSDGsの育成 ～PTA・地域住民・企業・消費者行政の関係機関等との共同活動を通して～	<p>1 地域での豊かな体験・交流活動ができ地域の一人としての自覚を持つことができ持続可能な地域づくりに貢献する必要性を学ぶことができた。</p> <p>2 生産と消費が関係していることを認識することができた。</p> <p>3 一人一人が生まれた時から消費者であることを認識できた。</p> <p>4 計画的にモノを購入することの大切さを認識できた。</p> <p>5 賢い消費者になるためには、商品が生産された環境、人権の保護、安全・安心の側面から背景を考えて行動しなければならないことを認識できた。</p> <p>6 持続可能な社会をつくるためには価値あるモノを消費する回数を増やすことが大切であることを認識できた。</p> <p>7 自分たちの消費行動で地域や世界を変える可能性があることを認識できた。</p>
福岡	小竹町立小竹北小学校	学校・家庭・地域の連携による交通安全教育の推進	<p>児童のかけがえない命を守るために、以下の取組で、学校・家庭・地域が効果的に連携することができた。</p> <p>1. 児童が集団登下校をする際、保護者や地域の方が安全指導をしたり、地域の方が毎日一緒に歩いて見守りをするすることで、交通安全のルールを守って安全に登下校をすることができている。</p> <p>2. 各地区の代表、交通安全協会、校区防犯推進会、警察、PTA、学校の総勢74名で組織される「子ども110の家」推進会議を年に2回実施することで、通学路の安全確保の情報交換ができている。</p> <p>3. 交通安全子供自転車大会に向け、児童が放課後やクラブ活動等で、地域のボランティアに指導を受けることで、安全走行に関する知識や技能が身につく、交通安全を意識できている。</p>
福岡	宮若市立宮田北小学校	読むことにおける思考力・判断力・表現力等を高める国語科学習指導 ～対話的な学びと立ちどまりを促す発問を通して～	<p>手立て1「互いの考えを広げることができる対話的な学びの工夫」</p> <p>1 グループで話し合ったことについてホワイトボードを活用し、構造的な板書にすることによって、児童の思考が整理され、意欲的に発表し、自分の考えを相手に伝えようとするようになってきた。</p> <p>2 ホワイトボードを活用すると、短文で、しかも要点がまとめられ、大事な言葉にも着目できるので、話し合いに効果的であった。</p> <p>3 全文シートは、全文を読み取ったり、振り返ったりすることができるので、友達と考えを比較したり、読みの根拠を明確にしたりするために有効であった。</p> <p>手立て2「立ちどまりを促す発問の工夫」</p> <p>1 児童がすぐに気付くようなところではなく、はっとするような発問をすることで、学びが深まっていた。</p> <p>2 発問の工夫とグループ構成の仕方や付箋の使い方の工夫によって一つの発言に止まらず、次々に発言をつなげることができ、考えを深めることができた。</p>
福岡	直方市直方東小学校	主体的に学び、進んで表現できる子どもの育成 ～交流活動の工夫を通して～	<p>1. 既習を元に課題を作る、教師が誤答を提示する、校舎の面積や有名アスリートと足の速い動物の時速を比べる等生活場面の想定など、児童にとって「驚き」を伴う問題提示の工夫は、課題解決に向けての意欲の向上に有効であった。</p> <p>2. 学年の発達段階に応じた問題提示の仕方を工夫し、見通しを示す方法は、他教科の場面でも応用することができ、子どもの主体的な学習を進める上で、有効であった。</p> <p>3. 学年の発達段階に応じたペアやグループでの交流活動は、子どもが自分の考えを広め、深めていく上で、有効であった。</p>

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

福岡	直方市立植木中学校	地域に根ざし、地域とともに生徒を育てる教育活動 ～「カラビナふれあい活動」を通して～	1. 活動後の各公民館長へのアンケートには、本活動を通して、本校の教育活動を前向きに捉えて頂いている意見を多く頂いた。以下は、その一部。「家庭や地域の人々とともに各公民館での独自の取組を行うことにより、自分達が地域の一員であることを自覚した事と思われまます」「(公民館への)要望がもっとあれば遠慮なく申し入れをして頂いても結構だと思います」 2. 本校にとって「地域の力」があることはとても心強く、我々教職員は、自信を持って生徒と関わり続けることができる。
福岡	宮若市立宮若西中学校	身近な話題について簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力の育成 ～4技能を統合したTASK活動を取り入れたPROJECTを通して～	1 単元の終わりに、生徒に身近な話題について、既習事項を活用するTASKを仕組んだPROJECTを通して、TASKを達成するための4技能を統合したTaskを段階的に行うことで、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を育成する指導のあり方を明らかにすることができた。 PROJECTの学習の基本パターン 第1次 1. TASKの設定 2. Task1「モデルを見たり聞いたりして、英文の構成をつかもう」 第2次 3. Task2「マッピングを使って、自分の考えを英文に書こう」 4. Task3「自分の英文について、友達の見聞を聞き、推敲しよう」 第3次 5. TASKの達成「自分の考えを発表することで、質問に応えたり、友達の考えについて質問したり感想を述べたりしよう」 6. Task4「PROJECTの振り返りをしよう」 2 生徒に英作文を作成させるに当たり、マッピングを行わせることは有効であった。
福岡	水巻町立机小学校	主体的に読み、自分の考えを形成する児童を育てる国語科学習指導 ～単元を貫く言語活動・並行読書と思考を促す対話的活動を通して～	1 「単元を貫く言語活動や」「並行読書」を設定したことは、文章を読むことに関する意欲を高め、主体的に文章を読む態度を育成する上で有効であった。 2 文章を読む意欲を高めながら「思考を促す対話的活動」で文章を解釈する知識・技能を身に付けることは自分の考えを形成させることにつながった。 3 学習過程に「対話的活動」を位置づけ、児童が「比較、順序、類別、理由付け、推論」の思考に即して対話的活動を行うことにより、自分の思考の過程を再度たどり、理解し直したり表現し直したりしながら自らの考えを深めていくことにつながった。
長崎	松浦市立今福中学校	学校評価を軸にした学校教育活動の活性化(改善・充実) ～学校経営グランドデザインを関連付けた学校評価の実践をとおして～	○ 学校経営グランドデザインと関連付けた学校評価の実践により、教職員が重点事項を明確にして教育活動を実践できた。 ○ 学校課題は多岐にわたるが、本校の実態に応じた重点課題の解決に向け「チーム学校」として教職員の力を集中することができた。 ○ 学力向上に向けて教職員の共通実践が図られ、全国・県の学力調査の結果や全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から成果を確認できた。特に「先生は分かるまで教えてくれますか」で、本校は「だいたい当てはまる」までが100%であり、全国平均を大きく上回ることができた。 ○ PDCAのサイクルを循環させるために、校務分掌の担当がミドルリーダーとしての役割を果たしてくれた。
長崎	対馬市立豊小学校	21世紀型の資質・能力を育む複式授業の実践 ～ICT機器の活用を中心に～	1. 複式学級の担任だけでなく、単学級の担任も異学年合同授業を授業研究したことで、複式授業を学級担任全員が経験することができた。 2. 「基礎・基本」「協働の力」など、本校の実態を考慮して児童に育てたい資質・能力を設定し、その定義について議論を積み重ねたことで、定義が明確になった。 3. 「問題提示から課題設定、自力解決、聞き合い、まとめ、振り返り」と学習過程を統一したことで、間接指導時にも児童が自主的に学習を進めるようになりつつある。 4. ICT の活用は基礎基本となる知識や技能を補完したり、既知の知識を想起したりするものであるというICT機器の活用の意義が明確化した。
長崎	南島原市立南有馬中学校	地域の特性・強みを活かした教育活動の創造 ～ふるさとのまちづくりに貢献する人材の育成を目指して～	1 個々の生徒のキャリア・マネジメントを軸とした主体的な学びを推進する取組を始めることができた。 2 キャリア教育を積極的に教科授業内に取り込むことで、授業内容の充実を図るとともに、生徒・教員ともに、有実感を持つことができた。 3 キャリア教育を学校教育活動全体を通じて行う仕組みをつくることができた。 4 学校教育と地域の歴史や文化、人々のくらし・仕事とのつながりを深めることができた。 5 今回の研究で得た知見を次年度学校経営構想に生かすことができた。

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

熊本	玉名市立滑石小学校	小中一貫教育時代を見据えた校長実践とリーダーシップ ～経営方針NSを軸とした児童の能力を高める協働の環境づくり～	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校長方針の関係者周知・徹底で、NS実践や学力向上に対する意識が高まった。</li> <li>2 校長便りやキーワード、校長掲示板等の積極活用で関係者への周知や実践が進んだ。</li> <li>3 校長児童全員面談や教職員自己テーマの実践を児童把握や教職員の意識向上に繋げた。</li> <li>4 全国学力学習状況調査、県や標準学力調査結果で地域をリードできる成果を得た。</li> <li>5 研究発表を行った事で職員の指導力も向上し、地域の信頼と協力を得ることができた。</li> <li>6 授業に集中する環境や教具を工夫し、UD化も進め、学習意欲が高まってきた。</li> <li>7 自分の考えを伝える場や時間を増やしたことで、発表力や表現力がついてきた。</li> <li>8 読書活動推進で児童の読書量が伸び、様々なジャンルの本も読めるようになってきた。</li> <li>9 丸付けボランティア協力等、地域で学力を伸ばす意識や環境づくりが推進されている。</li> <li>10 年度始め、全職員で自己テーマを設定・公開しあい、年度末個人論文作成者が激増した。</li> </ol>
熊本	熊本県立南稜高等学校	地域を担う生命総合産業(Total Life Industry)クリエイターの育成 ～「球磨の地に人材の泉を掘る」を目指して～	<p>「地域を担う生命総合産業クリエイターの育成」を主題に掲げ、「農・食・和・健」の4つの分野で、目指すプロフェッショナル像を定め、地域、大学、研究機関、企業等と連携し、15の取組を通して、地域を担う豊かな創造力と技術を持った人材の育成を、学校上げて目指すことが出来た。研究成果報告会を平成29年12月に実施し、外部の指導委員の方々から、生徒の成長について高い評価(4点満点中3.8点)をいただいた。さらに、授業の基本となる「南稜スタンダード」を改訂し、授業改善を進める中で学力の向上(平均60点以上)を図った。研究を通して、生徒、職員のモチベーションが高まった。(4点満点中外部評価3.8点、内部評価3.1点)</p>
宮崎	宮崎市立住吉南小学校	「確かな学力」を身に付け、自分の考えを主体的に表現する児童の育成 ～思考力・判断力・表現力の向上を通して～	<p>単元計画・学習指導過程の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童が主体的に取り組む単元構成の工夫」を学年部で教材研究したことによって、「目標—めあて—まとめ」の見直しをもった授業を行うことができた。また、児童に学習の最終目標を示すことで、問題解決的な学習をすることができた。</li> <li>・ 話し合いカードやグループ編成、導入、ワークシート、ICTの工夫・活用など「児童の興味・関心を高める授業の工夫」を行ったことで、児童の学習意欲を高めることができた。</li> <li>・ 日常指導の在り方</li> <li>・ 諸学力調査の分析・考察、児童の実態把握、基本的学習態度、学習環境の整備など、共通理解、共通実践により児童の実態に応じた指導や意欲の向上を図ることができた。</li> </ul>
鹿児島	枕崎市立立神小学校	自己を見つめ、よりよい生き方を目指す道徳科学習の在り方 ～多様な意見や価値観に触れたり、自分を見つめたりする対話活動を通して～	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3人程度の小グループを編成し、対話活動を実施すれば効果的であるということ。</li> <li>2. 「でも」、「なぜ」、「いつでもできるか」、「だれでもできるか」等の言葉を使って対話活動をすれば、判断に至るまでの理由や経験等が引き出され、価値観について、多様な見方・考え方に触れさせることができるということ。</li> <li>3. 主な学校行事について各学年、感想を書き、それらを道徳的価値ごとに分類して掲示すれば、多様な見方・考え方、よりよい生き方に気付かせることができるということ。</li> </ol>
鹿児島	指宿市立徳光小学校	他者と関わり、地域への関心を高める ～キャリア教育の視点から、学習を見直し、地域と関わる～	<p>地域の名産「徳松すいか」の栽培、収穫、出荷、市場での競り等の体験を中心に、従来の学習や活動をキャリア教育の視点からとらえ直した。また、地域、行政、他校種等との連携を図って学習した。この取り組みで、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童が、自分以外の人物(他者)との関わりを意識するようになった。(ワークシート、感想文の分析)</li> <li>2. 「友達のとよいところを励まし合う」「やりたいことに進んで取り組む」意識を高めることができた。(意識調査の分析)</li> <li>3. 地域人材の活用や、活動計画は、児童の意識が途切れないような工夫改善が必要である。ということが明らかになった。</li> </ol> <p>本研究の取り組みは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と積極的に関わり、社会的関心を高めること</li> <li>・今の学びが今後に生かされ、学びの世界を広げることになり、社会への視野を広げることにつながる。</li> </ul>
鹿児島	長島町立鷹巣中学校	運動の楽しさや喜びを味わい積極的に体力づくりに取り組む生徒の育成 ～運動有能感(統制感・受容感)を高める実践を通して～	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒会活動で運動を苦手とする生徒が運動することを肯定的に捉えられるなど多く変容が見られた。</li> <li>2. う歯の治療率や学校保健委員会への出席率の向上、自力登校状況の改善が見られた。</li> <li>3. 公認スポーツ栄養士を招聘し講演会を行い、生徒へ食育を行うことができた。</li> <li>4. ICTを活用した授業改善が図られた。</li> <li>5. 授業において生徒同士が認め合い、励まし合う場の設定などで受容感や統制感を高めることができた。</li> <li>6. 数値でも平成28年度から平成29年度にかけて、肥満傾向の生徒の割合が減り、新体力テスト総合評価(5段階)の結果では上位層の人数が増え、種目別伸長指数が全国比を上回る項目が増えた。</li> </ol>

平成29年度 教育研究助成応募【学校研究】

鹿児島	出水市立下水流小学校	外国語の教科化を視野に入れた小学校外国語活動の充実を目指す指導法改善 ～コミュニケーションを大切に、認め合い、学び合う児童生徒の育成を目指して～	研究主題に迫るため、①英語でコミュニケーションを図る必然性を意識した単元構成と授業展開の工夫、②コミュニケーションの基礎を育成するための工夫、③具体的な相手意識をもたせた活動の工夫、④児童が相互に交流する活動の工夫の4つの視点で実践研究を積み重ねてきた。その主な研究成果として、外国語活動を通して「友達よさに気付いた」、「自分に自信がついた」と感じている児童が増えた。多くの相手とコミュニケーションを楽しむことで、児童の自己肯定感が高まり、コミュニケーションへの自信をつけたと考えられる。また、「外国語を通して友達や先生と仲良くなった」と答えている児童の割合が依然として高く、相互に交流する活動が、よりよい自我理解につながっている。さらに、児童アンケートの結果、ほとんどの児童が外国語活動の学習を楽しみながらも互いに学び合う児童の姿を多く見かけるようになった。
鹿児島	志布志市立安楽小学校	意欲的に学び合い、思考力・表現力を発揮する授業を目指して ～算数科における効果的なICT活用を通して～	1. 一単位時間において「一思考一記録一発表」の位置付けをしたことで、子どもたちが見通しをもって、自分の考えを書くことができるようになってきた。 2. 児童のアンケート結果から、自分の考えを書くこと、説明すること、ペアやグループでの学び合いができてきている子どもが増えてきている。 3. ICTの活用により、子どもたちの学習意欲が高まり、また、「一思考一記録一発表」の際に活用することで学習内容に対する理解も深まってきており、思考・表現の一助となっている。 4. ICTの活用により、自分の考えを積極的に発表したり、説明したりする姿がよく見られるようになってきている。
鹿児島	奄美市立佐仁小学校	児童一人一人の教育的ニーズの把握と、支援のあり方の実践 ～チーム佐仁 特別支援教育に取り組んだ2年間(H27・28)の歩み～	1. 児童一人一人の困り感に目を向け、解決の工夫を図ることで学力や生活に必要な力を伸ばすことができた。 2. 特別な支援が必要な児童の教育について、学級担任に1人で抱え込ませず、職員全体で取り組んだことで、授業だけでなく学校生活の中で幅広い支援ができた。様々な取組を通し校内体制が整い、多くの実践を積み重ねて支援に対するノウハウを得ることができた。 3. コーディネーターが学級担任や支援チーム、専門機関、保育園等との連携を充実させたことで、児童一人一人にのり的確な支援ができた。 4. 課題に対し全職員で話し合い・協力して取り組むことが、職員の和を強め、学力向上、生徒指導、行事運営面での密な連携にも繋がった。
沖縄	読谷村立渡慶次小学校	「読み取る力」を高め、主体的に学習する児童の育成 ～国語科「説明文」の指導を通して～	1. 前年度からの積み重ねもあり、説明文の用語や順序を表す言葉などが身につけてきた。 2. 説明文の全体を捉えて読むことを意識して指導してきたことで、少しずつ「読み取る力」が身につけてきた。 3. 「説明文の手引き」や学習計画表でゴールを示したことで、児童が主体的に学習することができた。 4. 「習得させたい読みの方法・技能及び学習用語の系統」をもとに指導を行うことで、系統性が見えてきた。そのため見通しを持って学年指導を進めることができた。 5. 低学年から辞書活用が習慣化してきたため、語彙力アップに繋がった。
沖縄	沖縄県立那覇特別支援学校	特別支援学校における社会に開かれた教育課程の編成にむけて ～児童生徒も保護者も社会とつながる地域・社会資源を活用した取組の充実に向けて～	成果：学校が地域や社会とつながる視点を持つことは開かれた教育課程につながる。 ①障害が重度でなかなか外に出ることができない場合：外から本校に来てもらう。 企業の社会貢献活動(セイコーエプソン社のゆめ水族園、カネボウ：メイクアップ教室の開催、地域の洋菓子店及び飲料メーカーの提供をうけてのカフェ体験で多くの方々と接し、コミュニケーション力を向上させる)を活用し、社会とつながる体験の拡大につながった。 ②施設で生活している児童の経験の少なさを補う：社会資源を発掘し、活用する。 路線バスに乗る体験を通して、自分自身の経験の拡大を図り、バス会社に障害者利用を意識してもらい、利用しやすい社会の形成につながる。

平成29年度 教育研究助成応募【団体研究】

都道府県	学校名・団体	研究の成果	主要な研究成果
東京	日野市公立中学校長会	中学生による被災地に学ぶ生きる力プロジェクト ～自ら課題を設定し、知恵を出し合い、よりよい自分と社会を切り拓く意欲・実践力の育成～	(1) 気仙沼中との交流から、生徒の創造的で実践力のある活動を生み出すことができた。 ① 主体的な募金活動の企画・運営 ② 日野市中学校生徒会サミットの発足 ③ 全校において参加生徒による全校生徒に向けた体験内容のプレゼンテーション実施 (2) 防災やボランティアの関係機関との連携による取り組みが実現した。 ① 行政と連携した地域別防災訓練への参加 ② 大学と連携したイベントへの参加による地域への発信
新潟	上越国語教育連絡協議会	子どもが主体的に思考し、表現する国語教室の創造	「子どもが主体的に思考し、表現する国語教室の創造」を研修テーマに位置付け、授業づくりを柱に研究実践を重ねてきた。 1. 夏季研修会(参加者80名)ではテーマに基づいた8名からの実践発表と分科会が行われた。 2. また、秋季研修会(参加者70名)では研究授業を基にして、テーマに迫る協議会が開かれた。 3. これらの二つの大きな研修会を通し、「子どもが主体的に思考し、表現する国語教室の創造」のためには「論理的な話し方や主体的な聞き方を学び鍛える日々の授業づくり」「単元を通して位置付ける言語活動」「考えや意見を交流する協同的な学び」などの重要性が実践を進める上で大切にされるべき観点として改めて明らかにできた。 今後も研修テーマに基づく授業実践を重ね、上越の国語教室の充実、発展のため、研究推進に力を尽くしていきたい。
新潟	佐渡社会科授業を研究する会	社会科における思考力を高める指導の工夫 ～思考ツールの活用を通して～	1. 比較・関連付けをさせる場面において、同じ観点を足をもった「クラゲチャート」を2つ並べたことに加え、相違点を明確にするための学習活動を工夫したことで、子どもの自発的な関連付けを促し、その結果として社会的事象の意味を捉えさせることができた。 2. 写真付きコンセプトマップを使って知識を整理し、関連性を視覚化して考えることで、児童が社会的事象を関連付けて、社会的事象の意味を捉えることができた。 このように思考ツールを活用することにより、児童は「関連付けて社会的事象の意味を考える力」を高めることが明らかになった。
新潟	新潟県技術・家庭科研究会	生活や生き方を見通し、自立して生きていく生徒を育成する技術・家庭科教育 ～思考力・判断力・表現力を協働で育む技術・家庭科の学習過程の工夫	新潟県技術・家庭科研究会では「生活や生き方を見通し、自立して生きていく生徒を育成する技術・家庭科教育」を研究主題に掲げ取り組んできた。 主な成果として、「協働で課題を解決していく学習過程を工夫していくことで、知識・技能を活用して、課題を解決していく生徒の姿が見られたこと」「振り返りの充実を図ることで『学び』を意味づけして、自己の成長を実感・納得し、次の『学び』へ意欲を見せる生徒の姿が見られたこと」が挙げられる。この成果から、自立して生きていく生徒の育成につながった研究であったと言える。
新潟	二市北蒲原郡総合的な学習推進部	学び合いを通して、考えを広げ深める生徒の育成 ～郷土の環境や人との交流を通して、主体的に探究し、考えを広げ深める授業の工夫～	キャリア教育を意識しながら総合学習の3年間の学習計画を組み直し、身近な郷土について「知る・学ぶ・考える」という段階を踏んで学習を進めた。また、各段階における体験的活動に「計画→準備→活動→まとめ→発表→意見交換」の学習サイクルを取り入れたことにより、生徒の「調べる力」と「まとめる力や発表する力」が徐々に高まっていった。他に伝える(発表)活動の中で、相互に内容や方法等について意見交換(学び合い)することで、自他の考えのよさや改善点、伝え方の工夫などについてより深く考える機会が増え、生徒にとっての経験値となり、考えを他にわかりやすく伝える技能等の向上につながったと考える。
静岡	浜松市教育研究会浜松地区ものづくり	浜松地区ものづくり大会を通じた想像力・判断力・思考力・実践力の育成 ～5年間の実践とその成果の検証～	1 浜松地区ものづくり大会により、製作技能だけでなく、創造力・判断力・思考力など、技術科教育で求められる力が習得できた。 2 ものづくり練習を繰り返し技術力を習得することで、教員(指導者)から指示を受けた製作ではなく、自分なりの効率的な方法を考える判断力が習得できた。 3 浜松地区ものづくり大会により、ものづくりに対する意欲が高まり、結果として、全国大会で入賞する生徒が生まれ自尊心が高まった。 4 浜松地区ものづくり大会を通して、教員は学習指導要領「A材料と加工に関する技術」の指導事項の確認ができた。また、他校の教員との交流により、ものづくり学習の指導方法について研修が深まった。

平成29年度 教育研究助成応募【団体研究】

愛知	岡崎市生徒指導不登校対策部会	不登校児童生徒の学校復帰と自立を目指した支援の在り方についての実践研究 ～校外の適応指導教室「ハートピア」における5つの事例を通して～	<p>○校外の適応指導教室「ハートピア」における支援の充実による学校復帰率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理士による不登校児童生徒の相談活動の実施</li> <li>・「ハートピア」における担任会や親の会、ケース会議等、情報共有・協議の場の設定</li> </ul> <p>○不登校対策部会を中核としたチーム体制による関係機関の連携推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校対策部会による教員の自主研修会の実施</li> <li>・臨床心理士、スクールソーシャルワーカー、登校支援員等との情報交換や助言・協議の場の設定</li> </ul> <p>○校外の適応指導教室「ハートピア」における活動内容の充実と自己肯定感を高める支援の在り方の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハートピア」における体験活動(音楽会、環境学習、バトミントン教室、太鼓体験等)の充実</li> <li>・児童生徒同士の関わり合いの場面の設定と自己のエネルギーを高める支援の在り方に関する研究</li> </ul>
愛知	西春日井地区小中学校教務主任会	教務主任の力量向上を目指して ～実務内容の明確化と共有化した資料の活用を通して～	<p>(1) 研究の成果 ー地区教務主任会で2年次に行った研究に関する意識調査よりー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 実務内容の明確化について</li> <li>イ 実務内容の共有化について</li> <li>ウ 教務主任の力量向上について</li> </ul> <p>以上より、本研究によって、実務内容の明確化や共有化が進み、教務主任の力量向上が目指すことができたと考えられる。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 各校の実態に応じた「西春日井地区教務主任会 実務内容資料」の活用の在り方</li> <li>イ 継続した地区全体における共有化</li> </ul> <p>今後も、各教務主任が力量の向上を目指し、校長の指導の下、学校経営において一翼を担えるよう、務めを果たしていきたい。</p>
大阪	大阪市小学校教育研究会	一人一人の持てる力を十分働かせ、自らつくり出す喜びを味わう造形活動のあり方を研究する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童の発達段階や実態をしっかりとらえ、興味・関心に応じた題材を設定し導入や展開を工夫したことで、主体的な活動を引き出すことができた。</li> <li>2 児童が表したいことに合わせて材料や表現方法を選び、これまでの経験や技能を総合的に生かして作ることができる題材の開発ができた。</li> <li>3 適切な支援を行うことで児童に安心感をもたせ、イメージを広げたり、自分の思いを大切にしたりして表し方を工夫する児童の姿がみられた。</li> <li>4 自他の作品を鑑賞し表現に生かすとともに、言語活動をともなった鑑賞活動ができた。</li> <li>5 表現、鑑賞の活動にICT機器を効果的に活用することができた。</li> </ol>

平成29年度 教育研究助成応募【個人研究】

都道府県	学校名・個人	研究の成果	主要な研究成果
北海道	札幌市立屯田西小学校	ESD実践は現代の子どもたちにいかなる教育的効果をもたらすか ～学校教育におけるESDのカリキュラム化に向けて～	① 校内研修体制の活性化 授業実践の公開、教材のユースウェアの紹介、校内サークルでの活用などにより、校内研修体制を大きく活性化させることができた。 ② 外部との連携の緊密化 大学教授、JICA職員、フェアトレードさっぽろ戦略会議のメンバーの方など、外部組織との連携を図り、強化させることができた。 ③ 子どもたちの変化と成長・保護者の方々への広がり 授業の内容を理解するだけでなく、多くの子どもたちが実践の学びを実生活に生かしていく姿を実現することができた。
山形	山形県立山形中央高等学校	高等学校体育における指導体験が生徒の資質・能力の育成に及ぼす効果の検討 ～カリキュラム・マネジメントの視点～	1.指導体験の事後感想から、ほとんどの生徒が、指導法の理解、課題の発見、協力して取り組む姿勢等、将来役に立つと感じている。また、将来は地域のリーダー、学校教員、スポーツクラブのいずれの立場でも「教えてみたい」という回答が増加した。 2.教科(科目)間・地域と連携を図ることにより、「声かけ(賞賛・励まし)」「安全への配慮」「マネジメント」「わかりやすく説明」が身についたという生徒の感想が多く得られた。 3.小学校指導体験のような実践的な体験を積み重ねることによって「生涯を通してスポーツの振興発展に寄与する資質や能力」の向上に繋がっていくものと考えられる。
茨城	鉾田市立旭中学校	学ぶ意義や有用性を実感する理科学習指導 ～中学校第1学年「植物の生活と種類」における教材・教具の工夫を通して～	1. タンポポやプランクトンなどの身近な地域素材の教材化や最先端の科学や技術についての新聞記事などの活用 学習への興味・関心が高まるとともに、実感を伴った理解が深まるなど、日常生活における理科の学習の有用性を実感するために有効であった。 2. 顕微鏡シートの活用やパフォーマンステストの設定 技能の定着だけでなく、自己の課題を明確にして活動に取り組むなど、主体的な学びのために有効であった。 3. 考えを伝え合う場の設定 生徒の理解を深めるのに有効であった。 4. ルーブリックの作成やワークシートの工夫による評価方法の工夫 生徒の学ぶ意欲を高めるとともに、自己の成長を感じさせることにつながり、理科を学ぶ意義を実感させるのに有効であった。
神奈川	横浜市立西本郷中学校	「生徒とつくる学校図書館」の取組	1 朝読書については、「MO-RING」の取組を継続したことにより、全校生徒の70%以上が学校図書館を利用することができた。また、国語科の授業の取組として、全ての学年で「ピリオパトル」を実施したことにより、本に対する興味関心が格段に向上するとともに生徒の表現力も大きく伸びることとなった。その結果、「区ピリオパトル」、「県読書活動推進フォーラム」でのピリオパトル実演、「全国中学校ピリオパトル決勝大会」に出場するなどの多くの実績を上げた。 2 NIEの実践推進校としての活動を通して、授業で新聞を活用する教科が増え、学校司書が授業支援をする機会が増えた。また、市内の学校司書を対象とする研修で、社会科の授業に学校司書が支援をしている様子を発表し、学校司書の育成・啓発活動に貢献することができた。
新潟	長岡市立四郎丸小学校	小中の学びのつながりに着目した体育学習 ～小学校第5学年「楽しもう！パスサッカー」の実践を通して～	1 学習前アンケートを通して前学年までの学びや運動への意識を把握し、それをもとにして、パスを重視したサッカーを構想・実践することができた。 2 学習シートをもとに、ねらいや進め方を提示し、単元の学習への見通しをもたせることができた。 3 毎時間の学習課題や技能面のポイントを提示・示範することにより、児童が課題や意欲をもって運動に取り組むことができた。 4 少人数での同じルール・内容での簡易化されたゲームを繰り返し設定したことで、前回の学習を生かして運動に取り組もうとする姿が見られた。 5 中学校教員とのチーム・ティーチングを行い、中学校の学習内容につながる動きや作戦を取り上げて紹介してもらうことで、中学校の学習内容を意識して運動に取り組むことができた。 6 振り返りの時間を確保し、作戦ボードを活用した話し合いを取り入れることで、課題に応じた動きや作戦を考えることができた。
新潟	新潟市立巻北小学校	文学作品における 子どもの解釈を深める指導の工夫 ～情景を描かせ、言葉を検討させる授業の組み立て方～	【情景を絵画化し言葉の検討を促す授業の要件について】 1 話者とそれ以外のものの位置関係を明確にしたいときに、情景を絵画化することは有効である。 2 まず、話者から見えるものを書き出し、必要なものに絞って絵画化させていく。 3 絵を描かせる際に、何を書き入れるかを端的に示す。 【「解釈文」の有効性について】 1 解釈文を書かせる活動は、ある程度の自由さをもって、子どもの解釈を広げることができる。 2 教授内容(教師が教えたと考える内容)と学習内容(子どもが学んだ内容)との溝を埋める手立てとなり、指導の自己点検を励ますものとなる。 3 子どもたちの作文力、理解力に左右される面が大きい。見本の文章を写すことから始めて、自力で文章化できるよう、指導のステップを設ける必要がある。
新潟	五泉市立村松桜中学校	科学的な根拠を明確にし、現象を説明できる生徒の育成 ～中学校3年「化学変化とイオン」における実践～	根拠を明確にした思考を習慣づけるため、1枚ポートフォリオ評価、スモールステップにしたヒントシート、ワールドカフェ、視覚的に捉えられる思考ツールの4つの手立てを導入し、授業を実践した。 1 本実践で用いた手立ては、生徒が科学的な根拠を見いだす上で有効に機能すると判明した。 2 有効と判明した手立てを用いて、科学的な根拠を明確に示しながら他者に説明することができる生徒の育成を目指した。その結果、各手立てが有効に機能し、多くの生徒が科学的な根拠を意識し、明示しながら相手に語る姿に変容した。

平成29年度 教育研究助成応募【個人研究】

富山	富山県立高岡工芸高等学校	シーケンス制御における実践的な教材の開発	<p>1. シーケンス制御ではプログラミングを中心に学習を進めることが多いが、制御部と機械を結線するハードウェア部分に焦点を当てて、安全に失敗しながら学習を進められる教材を開発した。</p> <p>2. 教材を使用したの授業案やテキストを作成し、授業を通して教員側、生徒側の両面から教材についての評価を行った。</p> <p>3. 生徒側からは「失敗しても壊れないという安心感から、いろいろと試行錯誤できる」「何度も繰り返しているうちに出来るようになった」という評価が、教員側からは、「実習や課題研究など他の授業でも、結線図を見て結線をする事に抵抗感を持つことなく、素早く結線を行う様子が多く見られるようになった」という評価が得られた。</p>
長野	上田市立第六中学校	通常学級で学ぶ特別に支援が必要な生徒の変容を三つの視点から考える	<p>1 「受容的な職員集団づくり」「受容的な学級集団づくり」「個別の支援」の三つの視点を大切に、意識しながら実践を続けてきた。その結果、Aが変わり、母親も変わり、両者が同じ方向を向いて歩み出すまでになった。また、両親で大きく違っていた子育ての方針も一つになり、同じ方向でAを育てていくようになった。</p> <p>2 Aは、今起こしている事件の背景がずっと前の出来事由来しているという事が多い。事件とその背景との文脈がつかめないため、私達にとっては突然の事件発生というように思ってしまう。そういうAとの対応を通して、他の生徒への対応もじっくり考えられるようになり、私の指導力の向上にもつながった。</p>
長野	長野県岡谷工業高等学校	発明・考案を通じて災害から身を守る安全グッズの製作 ～知的財産権をわかりやすく実践する取り組みについて～	<p>1. 知的財産権の重要性への理解と実践 生徒の知的財産権のイメージは、「発明や考案をすることは、大学や企業の研究室で、学歴の高い人が行うものではないか？」でした。当然、そのような知的財産権も当然あることと重要性を理解して、今回のように身近な問題点に着目して改善に取り組むことで、高校生ができる知的財産権を実践することができました。</p> <p>2. 発想力の向上 A) 取り組む中で設計図にあたる「図面」を書いて、作品の機能性を検証していくことで、発想力が飛躍的に向上した。 B) 「図面」が完成して実際に作品造形する過程で、100円ショップやホームセンター、手芸店などに行き、必要となる材料調達において創造する発想力が養うことができた。</p> <p>3. 表現力の向上 A) 「図面」を実際に製作・造形する過程で、作品が機能に合致させるための表現力の向上が確認できた。 B) 完成した作品の「説明書」を作ることで、自分たちの作品の機能をわかりやすく第三者に説明する表現力の向上が確認できた。 C) 2～3人のグループで取り組む過程で、意見を交換して問題点を解決していくことで、自分の意見をきちんと相手に伝える表現力と意見をまとめて調整する力などコミュニケーション能力の向上が見られた。</p> <p>4. チャレンジ意欲の向上 コンテストに出品して第三者の評価を得ることにより取り組みへの達成感を得ることで次へのチャレンジ意欲の向上が見られた。</p>
岐阜	関市立板取小学校	豊かな感覚を身に付けるための「適切な指導と必要な支援」とは ～感覚統合と、「わかる」ための授業の一考察～	<p>1 「わかる」ということを、具体的な字実践事例から分析し、授業における適切な指導と必要な支援のあり方が明確になった。</p> <p>2 「わかる」ことは、心が整理されることで、特別支援教育で用いられる感覚統合という視点で検討すると、子どものつまづきがよくみえてくる。</p> <p>3 その実践事例「割合」であれば、単なる公式化は有効な手段ではなく、イメージを図ることがとても有効な手段であることがわかった。</p> <p>4 また、図形領域では、イメージ化するためには、生活体験、学習体験により差異が生まれること、それを前提としてよりよい視覚的支援を検討することが有効である。</p>
岐阜	岐阜県立大垣工業高等学校	高等学校定時制課程における説明文の指導 ～目標の名確化と個に応じた指導～	<p>① 説明文の類型化(下記参照)を行い、定義の説明文に絞って指導した。そうすることで、指導前と指導後で比較すると目標を達成する割合が35%から703%に増加した。</p> <p>※説明文の類型 【1】定義の説明文(親とは何か、大学入試制度変更の概要) 【2】手順の説明文(オムレツの作り方、東京駅への道順) 【3】違いの説明文(野球とソフトボールの違い) 【4】原因・理由の説明文(なぜA社は倒産したか)</p> <p>② 到達目標となる作文を教師側が執筆し生徒に示した。そうすることで、作文執筆中に書き方がわからなくなった生徒は随時到達目標を確認できた。</p> <p>③ 机列表と個人カルテを用いた。机列表により、個に応じた指導ができた。個人カルテを生徒に配付することで、生徒たちはできたことを励みにしたり課題を認識したりすることができた。そして、それが次の授業への意欲の高まりにつながった。教師側としても、カルテを使った系統的な指導ができた。</p>
静岡	磐田市立磐田北小学校	身の回りの出来事に自分からかかわりを持って立ち向かって行く子 ～子どもが切実に学ぶ「総合的な生活科学学習の時間」の探求～	<p>1 ひと・もの・ことと、より深く関わり合って学び合い、自分の事として切実に学ぶ子が増えたこと</p> <p>2 様々な場面で起こる問題に対して、適切なところで折り合いをつけ学び合う子が育ったこと</p> <p>3 子どもの情熱・エネルギーを集団の大きな渦にして、学ぶ楽しさを味わわせていくことの重要性が明らかになったこと</p> <p>4 問題解決のプロセスを味わわせ、子どもが自立した学び手(暮らし手)として、自分の生き方・在り方を、単元を通して考え続けられたこと 今後の課題と展望として、子どもの意欲を高める日常的な教師のかかわり方を検証していきたい。</p>

平成29年度 教育研究助成応募【個人研究】

愛知	愛知県立海翔高等学校	普通科コース制としての防災教育の挑戦 ～環境防災コースの取組みを通じて～	<p>1. 学校教育の教育課程で防災に関する科目を設定し、3年間で約315時間の防災学習を行うカリキュラムを完成させることができた。このことにより、学校教育における防災教育の一例とできた。</p> <p>2. 地域との交流を通して、生徒一人ひとりに社会の中で必要とされている体験を積ませることができた。こうした体験が、自己の有用感を高め今後の社会で期待される防災リーダーとしての自覚や資質を育成することにつながった。</p> <p>3. 防災活動や災害時の支援では、互いに協力し合い支え合うことの視点から学習することができ、公共の精神の涵養につながった。</p> <p>4. 思考や判断力を向上できる学習要素を多く含み、問題解決能力など「生きる力」の育成につながった。</p>
鳥取	鳥取大学附属中学校	プログラムの理解を促すアンブラグド・アクティビティの開発	<p>1. 授業における生徒のプログラミングが、教師の提示する参考プログラムの模写にとどまらず、自らの試行錯誤を経たプログラミングとなった。</p> <p>2. プログラムの命令を理解していない生徒に対して、言葉による知識の伝達ではなく、動作を通じた命令の理解を促すことができた。その結果、ほとんどの生徒がプログラムについて理解し、自ら考えたプログラムを作成したり、作成したプログラムに手を加えて改良したりする姿が確認できた。</p> <p>3. 生徒の主体的なプログラミング活動を促すための授業展開について、教師が解答を提示して生徒に考えさせるのではなく、わからないとしても、生徒にまず考えさせることが重要であり、その支援としてアンブラグド・アクティビティが有効であることがわかった。</p>
岡山	岡山県立鳥城高等学校	主体的・協働的な学びの国語授業 ～表現する場を設定した実践～	<p>1 インタビュー活動と壁新聞作成 少人数グループによるインタビュー活動とその内容をまとめた壁新聞を作成する過程で、協働意識やコミュニケーション能力を培うことができ、他者の意見を取り入れ理解しようとする内面的成長に繋がった。</p> <p>2 プレゼンテーションと相互評価 自己の意図や考えに対して聞き手の共感を得られるよう、グループ内で対話・協働して必要な情報をとりまとめ資料を作成することで、効果的な表現への意識が高まった。またプレゼンを通して身動的活動を伴う表現力の育成や心の伸長が図られ、相互評価により客観的な視点を持つことができた。</p> <p>3 新聞投稿 不特定多数の読み手に対して、自分の意見や考えを正確に理解してもらえよう表現を工夫して文章化することを通して、自分を対象化して考えたり論理的に組み立てたりすることができ、思考力や表現力の向上に繋がった。</p>
山口	山口市立湯田小学校	主体的・対話的で深い学びへのアプローチ ～「アクティブ・ラーニング」の視点を意識して～	<p>1. 課題の提示、仮説、実験、考察という学習過程を毎時間繰り返すことで、確実に知識や技能を習得することができた。そのことが、難しい課題にむかうときの手がかりとなり、意欲的な学習につながった。</p> <p>2. 学習した知識を組み合わせて解決するよう少し難しい問題を提示することで、グループで話し合っって意欲的に問題を解決しようとする姿が見られた。</p> <p>3. 意外性のある問題やクイズを提示し、班で話し合いながら解決する学習を仕組むことで、友達と協力しながら問題を解決しようとする姿が見られた。</p> <p>4. 毎時間、授業の終わりに分かったことをノートにまとめる時間を確保することが、知識や技能の習得につながった。</p>
徳島	阿南市立岩脇小学校	新学習指導要領の趣旨を踏まえた、児童の主体性を育む外国語活動の実践	<p>1. 外国語を用いて、2020年開催の東京オリンピックとどのように関わりたいのかを明確にしたことで、児童が「自分も東京オリンピックを支える一人である」と自覚し、オリンピックを応援する方法を主体的に考える姿が見られた。</p> <p>2. 「オリジナルオリンピックTシャツを作って東京オリンピックを応援する」という具体的方法を設定したことで、どのような英語を話したり書いたりすることが必要かを児童が深く意識して活動に取り組むことができた。</p> <p>3. 色や形に自分の思いを込め、それを英語で伝えることで世界とつながることが可能だと児童が体感でき、英語を学ぶ意義についても認識が深まった。</p>
宮崎	日南市立油津小学校	情報活用の実践力育成の在り方 ～第1学年国語科と生活科の授業実践を通して～	<p>1 小学校第1学年で習得させたい情報活用の実践力を整理し、その能力を習得させるための具体的な学習活動を年間指導計画や単元の指導計画に位置付けたことで、情報活用の実践力の育成を意識した指導をすることができた。</p> <p>2 情報活用の実践力を高める手立てを工夫しながら授業実践をしたことで、児童が進んで情報を収集し、文・絵や図、クイズや紙芝居にまとめて伝えることができるようになった。</p> <p>3 終業式で児童代表作文発表をすることになった児童は、分かりやすく伝えるために、自ら資料を準備し、それを提示しながら発表することができた。</p>
沖縄	沖縄県立南部工業高等学校	ものづくりを取り入れた、実習・課題研究の取り組み ～ロボットアメリカンフットボール製作活動、全国大会をめざして～	<p>(1) 体験的な製作活動(ロボットを実際に自分で作り、動かしてみる)を通し、生徒が意欲的に課題・研究に取り組んだ。</p> <p>(2) 設計・製作期間、そしてロボット大会などに出場するなど、課題・研究形態に色々な変化を持たせる事で生徒の活発な動きが見られた。</p> <p>(3) 協議への参加に関しては、ある一定の期間で製作・完成させなければいけないので、生徒達は締め切りの大切さ・厳しさを改めて実感・理解した。</p> <p>(4) 生徒達の研究熱心が実を結び、ロボットアメリカンフットボール沖縄県大会に出場し、さらに全国大会出場の出場機会が来た。全国の他校の技術を取り入れたり、今後の課題等を振り返るのに良い機会であった。</p> <p>(5) 生徒達は課題研究「ロボット製作」の中から、ものづくり・ロボット製作だけではなく、厳しく課せられたラジコン操作練習やマシン改良の中からのデータ取り、ロボット大会での試合運びも含めたメンタル面での成長、また試合競技の中から挨拶や礼儀作法も学び取り、充実した課題・研究が行えたと思う。</p>

平成29年度 教育研究助成応募【個人研究】

<p>沖縄</p>	<p>沖縄県立島尻特別支援学校</p>	<p>美術の授業で育てたい子ども ～教科を通して育てたい子どもの姿と授業デザインを再考してみる～</p>	<p>1 シンプルな授業デザイン、やり直しや扱いのし易い材料・用具の選定、ゲーム性のあるテーマ設定にすることで、面白いコースを作るという課題を試みながら追求しようとする姿が見られた。 2 活動の課題分析を行い内在する課題を整理し、生徒の状態像との関係の中で見通しを持った支援が行えたことにより、個々の目標やペースで学習に取り組む姿が見られた。 3 他者の作品で遊ぶ鑑賞を通して、よさを感じたり、自分の作品を改良するなど影響を受け／与えながら作る姿も見られた。個別の手だてを要する生徒も特に鑑賞活動においては互いに刺激し合える他者として機能することができた。</p>
-----------	---------------------	--	--